北支

現地編輯

THE NORTH CHINA



6

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可　昭和十五年五月廿五日印刷納本　昭和十五年六月一日發行（毎月一回一日發行）第十三號



壁報に見いる民衆・濟南

建設
東亞新秩序



The People of North China are Deeply Interested in the Construction of a New Order in East Asia



林立せる帆柱・青島小港

戎(ジャン)克(ク)

5頁へ←





戎克

青島と大清河

Junks Along the North China Coast have been the Greatest Means of Transportation Since Olden Times



支那に初めて舟ができたのは大たい夏の時代（約四千年前）といはれます。一般にひろく利用されだしたのはさらに一千年の後ですが、春秋、戰國の時代になると戰爭に舟が利用されるやうになり非常に進歩したやうです。史記にそのことが載つてゐます。戰國時代、張儀が楚旺に曰く『秦の西に巴蜀の大船あり、粟を積んで汶山より起り江に浮びて下る、楚に至ること三千里、舫船載卒、一舫に五十人と三月の食を載す、水を下りて浮く一日行くこと三百餘里、里數多しと雖も牛馬の力を費さず、十日ならずして距扞の關に至る』これで見ますと速度も、積載量も相當なものゝやうです。さて水路はどんなふうか見ますと揚子江、黄河、渭水、洛水、汾水、濟水、漳水、淇水、淮水、漢水などが天然の交通路となつてゐました。ところがこれらの各河川は「西より東へ向ふ」ものばかりで、「南北を通ずる」ものがありません。そこで隋、唐の時代（約千三百年前）に南北を通ずる「大運河」その他の運河が掘られました。隋の煬帝はこれらの運河を利用して、舳艫相接すること二百餘支里といふ船隊群を率いて江都に行幸したり、三百四十萬の大軍を運んで高麗征伐をやつたりしました。この時代の水路は大小合せて三十二萬箇所といふ莫大な數に上つてゐます

戎克ほど便利な交通機關はありません。汽車なら線路、汽船なら港、自動車なら道路などの條件によつて本來の輸送能力に支障を來すことがあります



全家族をのせて家ともなる民舟（大清河・下莊）



運河をゆく戎克（大清河・蘇橋鎭）



戎克貿易（青島小港）



炊事道具をもつ筏（青島小港）

が、戎克は水の上なら我まゝ氣まゝ、手がるにどこへでも行けます。鐵道、自動車と竝んで大陸の開發になくてならないものですし、近海貿易、邊境交易にも大きな役割を持つてゐます



コークスの原料炭到着

製鐵燃料
コークス

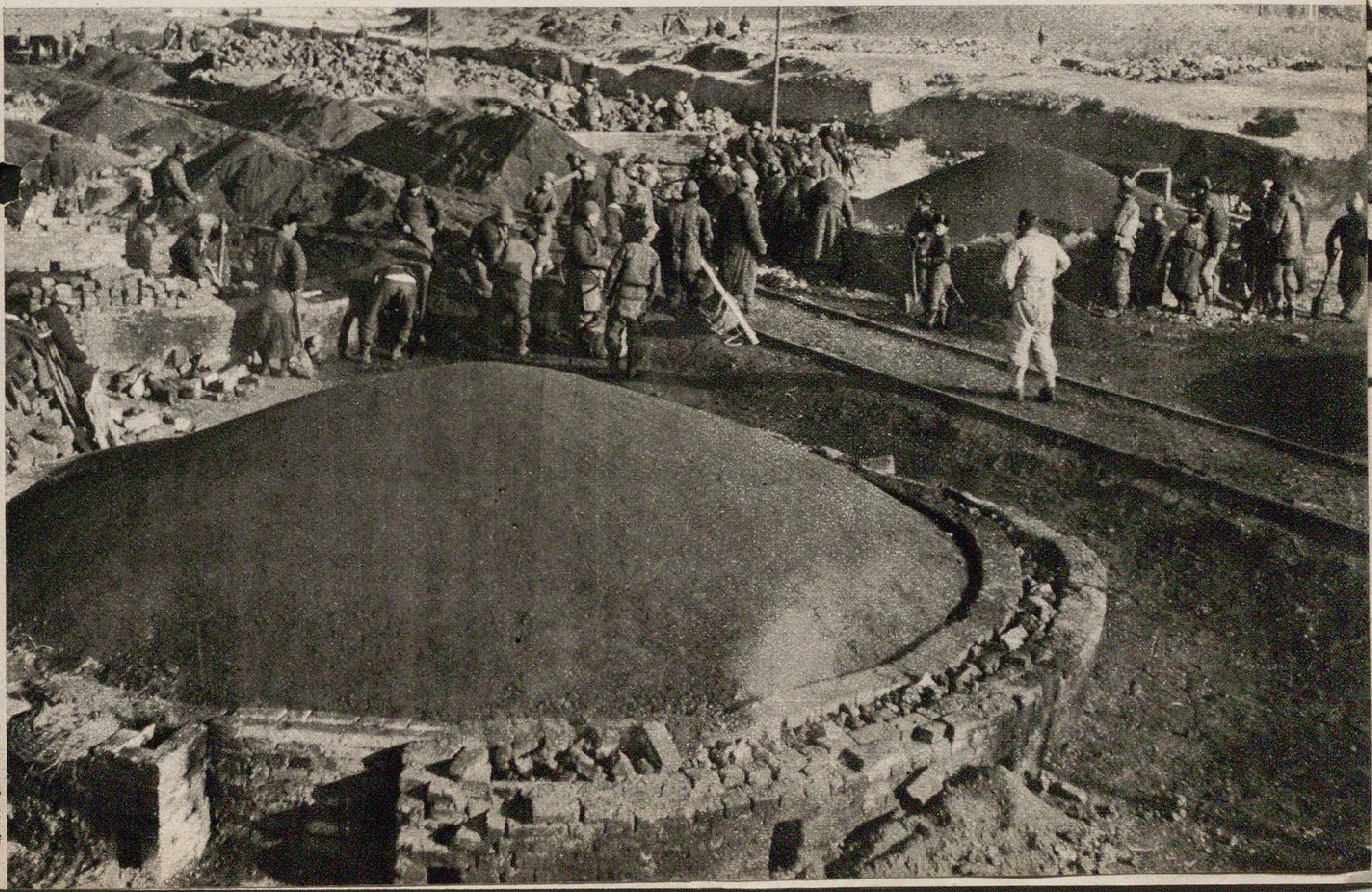
Coke is the Most Important Item which Feeds the Foundries that Manufacture Iron

ドイツは鐵礦石を殆ど他國に依存してゐるが、昭和十三年度の製鐵高に於いて世界の第一位に躍進したのは、自國内に石炭の生產が豐富なことと輸送力が充實されたためである

昔は殆ど木炭を燃料として製鐵されてゐたが、十八世紀の初、英國に於てコークスを使用し初めて以來、鐵の大量生產が可能となつたのであつて、現在の製鐵事業の九十五パーセントはコークスを燃料としてゐる。銑鐵一瓲の生產にはコークス二瓲を必要とする

コークス原料の石炭としては强粘結性で灰分と硫黄分の少ないものほど優良であるが、これに該當する北支の石炭は河北省の開灤炭礦（埋藏三億三千萬瓲）井陘炭礦（二億二千萬瓲）の外に頗る豐富にあるといはれる。また鐵鑛も赤鐵鑛で純分五十三パーセントの察哈爾省龍烟鐵鑛を筆頭として二億瓲の埋藏は確實といはれてゐる

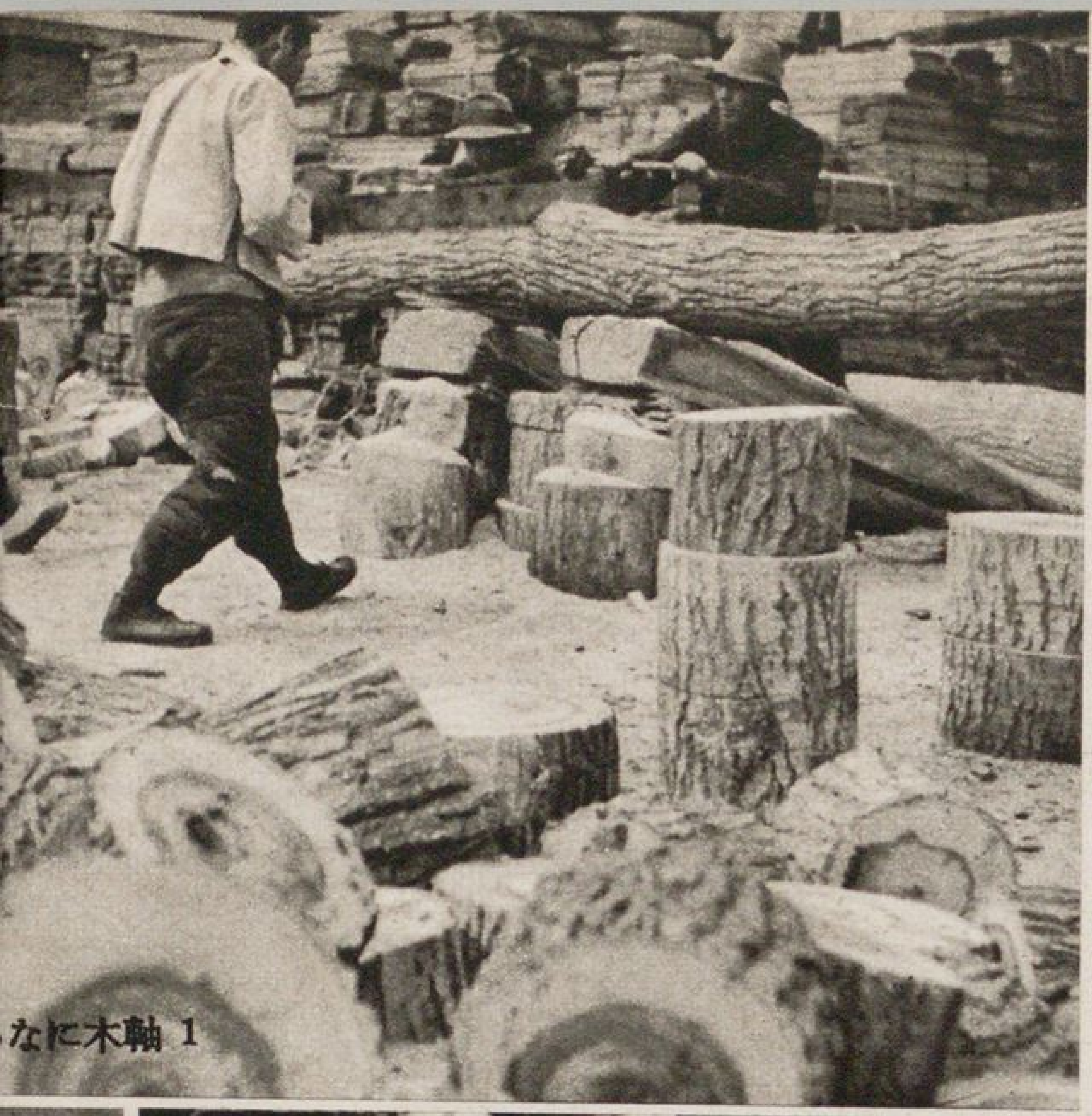
戰時原料資源獲得を焦眉の急務とする日本にとつて、これら豐富な原料資源は誠に寶の山であるが、現下の資材難よりくる輸送力の著しい制限や港灣施設の不備等で日本への輸送は圓滑を缺き、また現地製鐵事業は原料、勞力の豐富低廉等の有利な條件を持ちながら機構の弱少のため徒に寶の持ち腐れとなつてゐる。輸送問題及び現地機構の整備擴充が、日本朝野の認識の是正により解決されたあかつきには、日滿支經濟ブロックの一員として北支の將來は刮目すべきものがあり、東亞新秩序建設の軌道も本格的になるであらう



コークスの野燒場



燃えついた石炭を窯外に投げて消す



1 軸木にな

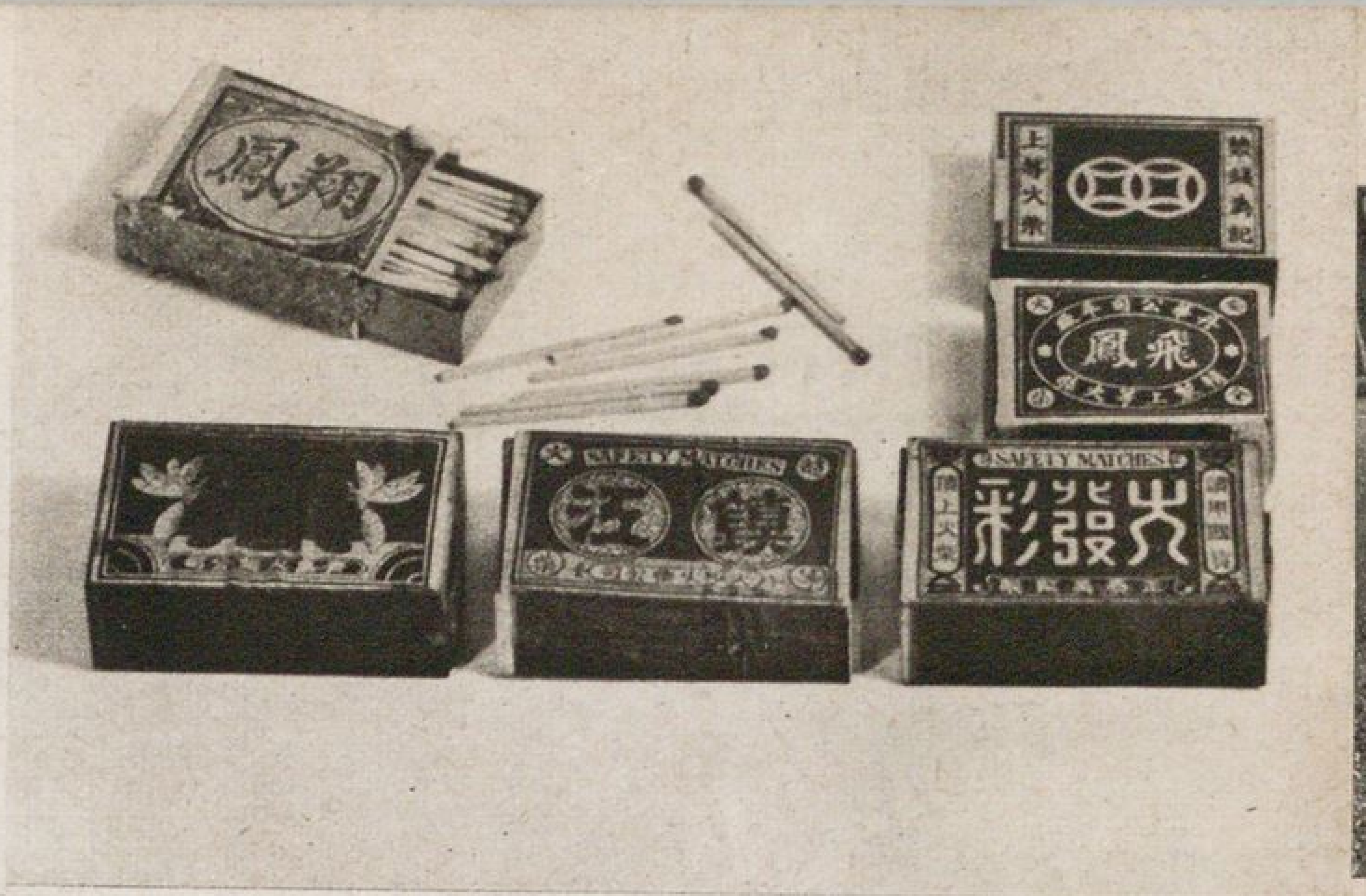




4 刻まれてゆく軸木



6 藥品の製作

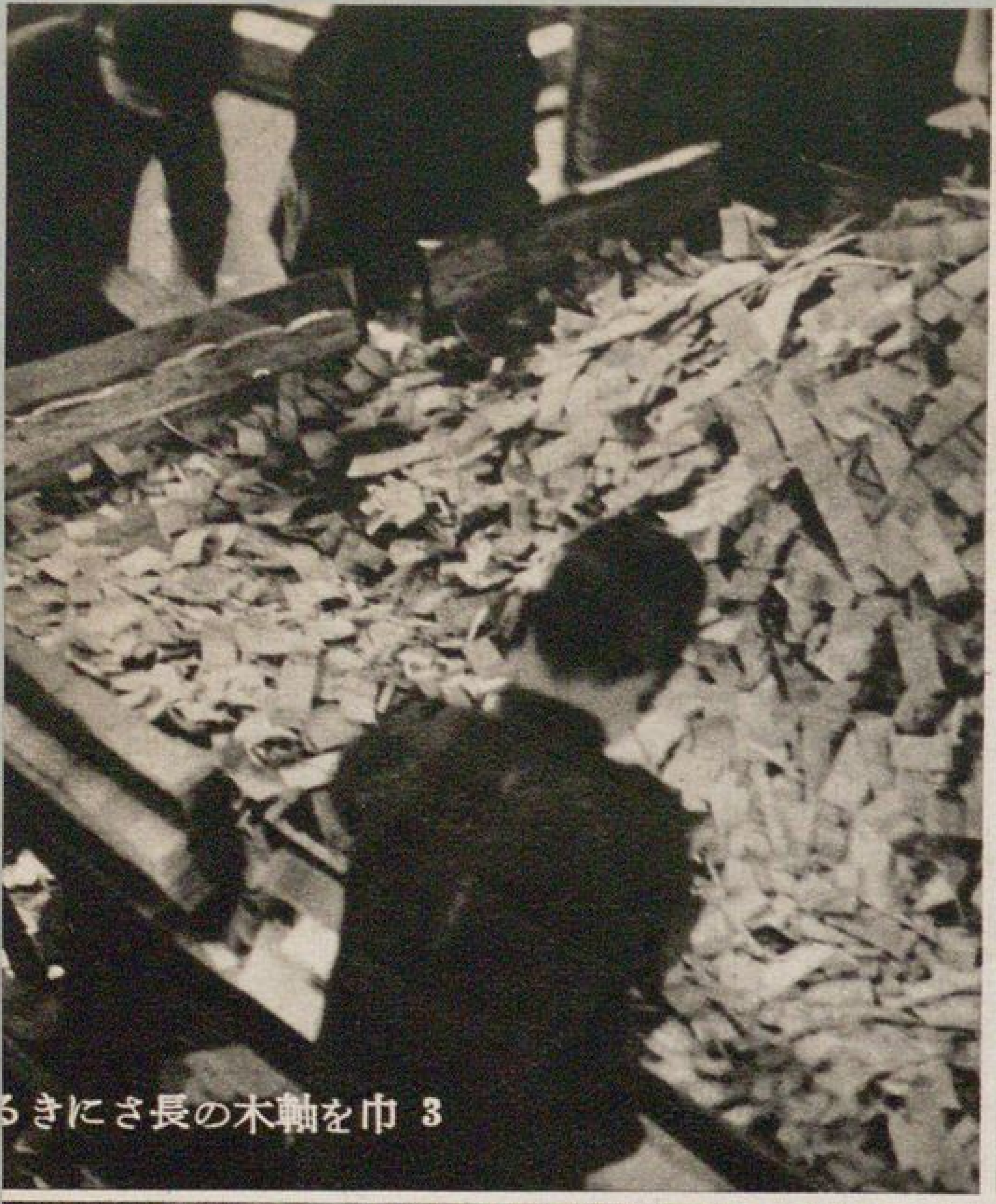


燐寸製造

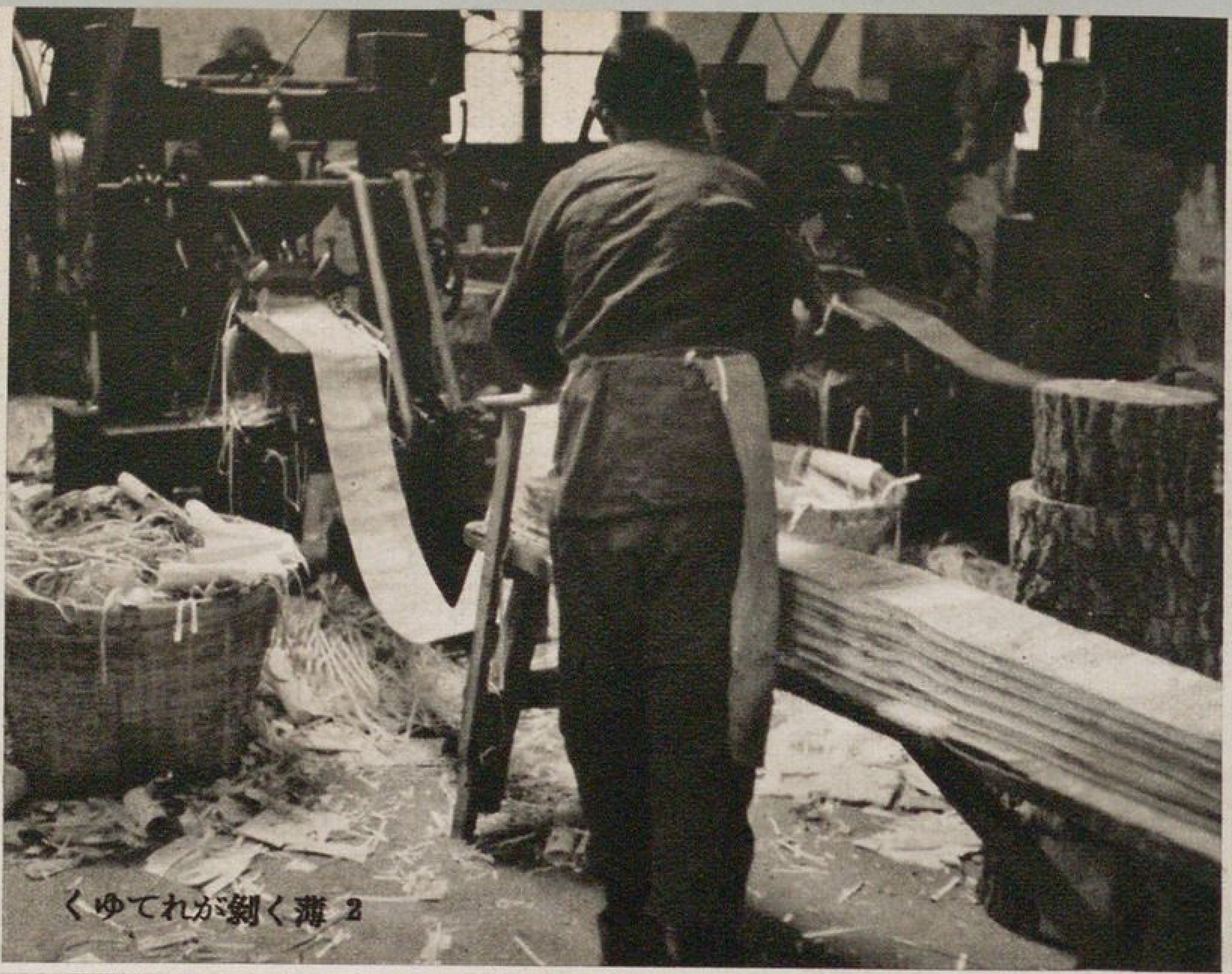
天津と濟南

Safety-Match Manufacturing Plants At Tientsin & Tsinan

北支でマッチが盛んに造られるやうになつたのは十九世紀の終りから廿世紀の初めにかけて世界を風靡したスエーデンマッチに刺戟されてからである。生産行程が簡單で資本もあまりかゝらず、廉くて豐富な勞働力を持つてゐるので他の工業に較べて急テンポな發展を見せ、今では紡績や製粉工業につぐ北支三大工業の一つとなつてゐる。その間にはスエーデンや日本からの輸入品や天津、青島に進出した日本工場の壓迫などもあつたが、政府の外貨排斥と自國工業の强化策によつて各地に工場が設立され、民國十五年には四十三工場であつたのが、二十三年には七十三に增加した。しかしこれらの工場の亂立は却て生産の過剰と市價の低落を招き、その前途を危ぶまれるやうになつたので、これを打開するため支那としては珍らしく强力な統制機關の聯營社を二十四年九月政府で組織して生産、販賣の統制にあたらしめた。事變のためこの聯營社をはじめ多くの工場は休業のやむなきに至つたが、民國二十八年三月臨時、維新兩政府の指導によつてこの聯營社を復活し、日本軍占領地區内の生産と販賣に當らしめるやうになつた。この聯營社には北支、中支、南支に亙る日支の各工場が包含されてをり、天津に總社、天津、上海、青島に分社、北京、濟南その他各地に支社が置かれてゐる。所屬の工場は六十二、うち日本七、中日合辦二。一年の生産目標は八十四萬大箱（一大箱は二四〇包）で大體自給自足を圖ることにしてゐる。マッチの種類は琉化マッチ（支那工場製）が最も多く、日本工場の安全マッチがこれにつぐ。原料の藥品や木材は總て日本からの輸入である



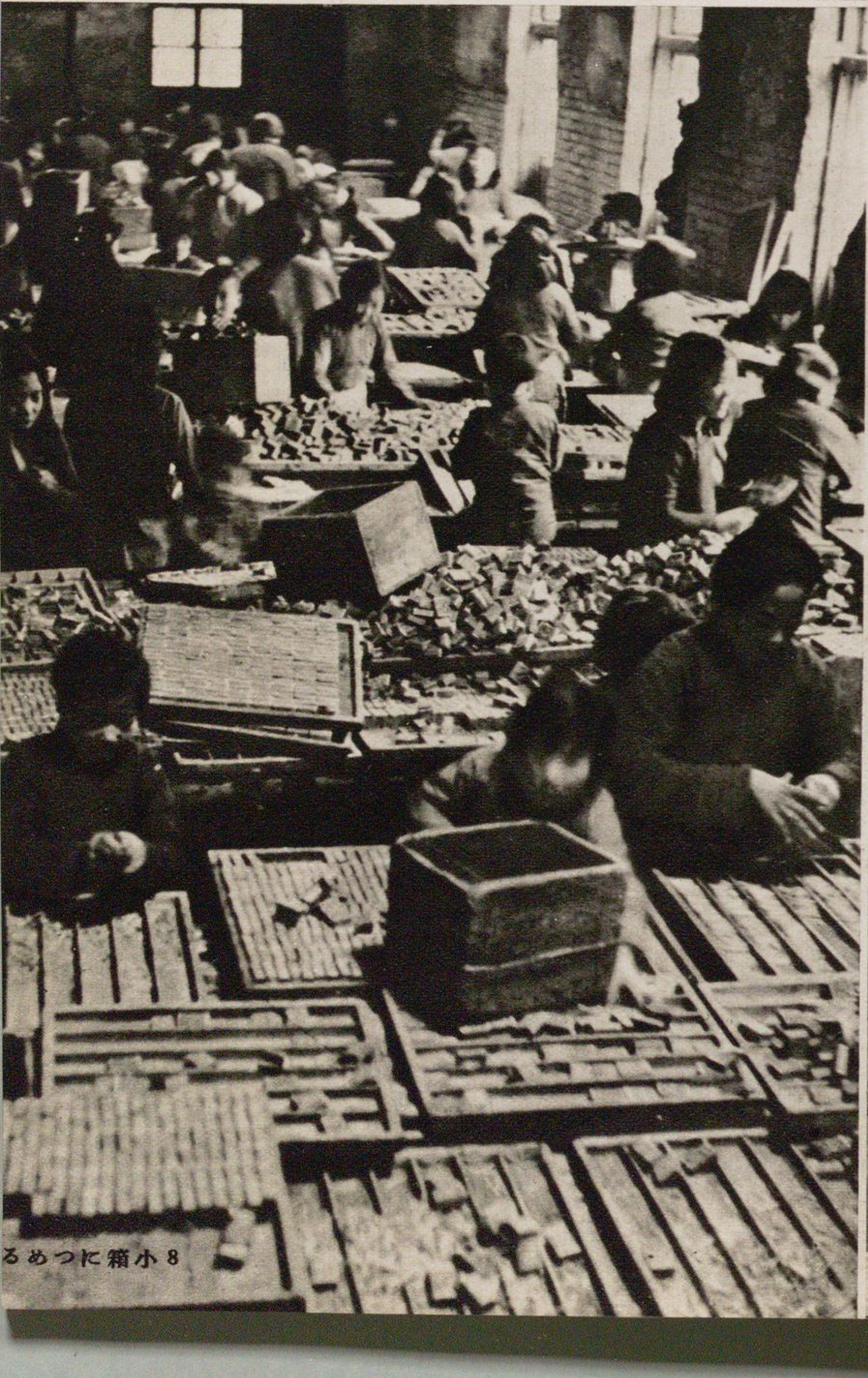
3 巾を軸木の長さにきる



2 薄く剝がれてゆく



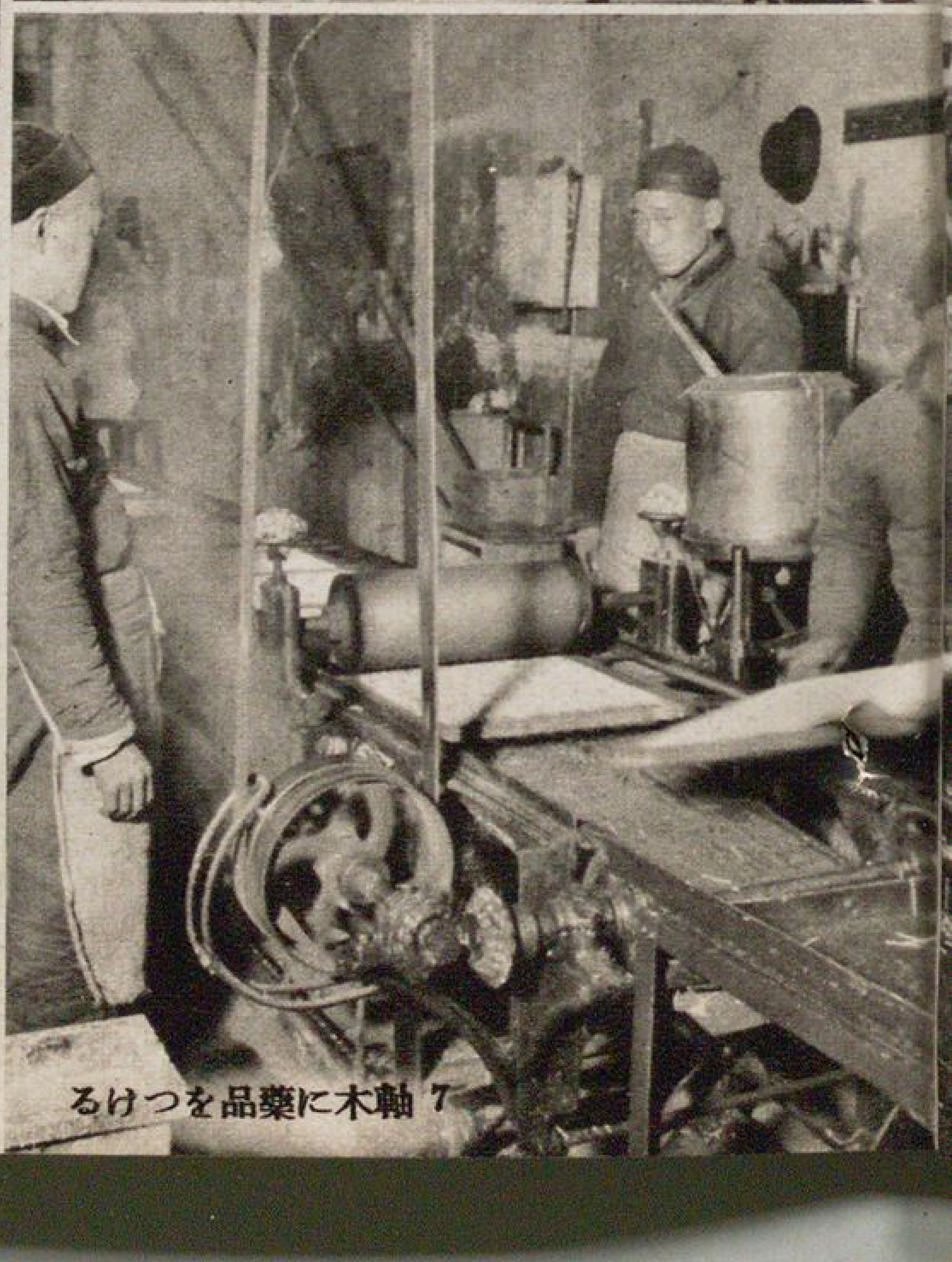
木材



8 小箱につめる



5 整理された軸木



7 軸木に薬品をつける

北京の花ごよみ

三月も半ば過ぎると灰一色にくすぶつたやうな北京の街のあちこちに柳が萌え、まづ蓮翹杏、桃の花が咲出し、四月となれば、百花萬花絢爛として咲盛る。時に海鼠みたいな胡同の土塀に覗く花を見つけるのも嬉しい。北京の家はおほかた院子（ユアンツ）（中庭）があり、そこには夾竹桃、柘榴の鉢植がつきものと云つてよい位。外國人は北京にきて家屋の配置その他無駄が多いと呆れるけれど、いかにもゆとりのある院子で不用意に並べたやうな植木を見るのはなかなかよい。無駄と云へば北京の無駄は大變なものである。兼好法師ならずとも身にキチキチの洋服を着てアパートの箱住ひは出來ることなら御免蒙りたい。北京の花の盛大さもゆとりある生活に憧れた北京人が培つてきたものであらう。中央公園に行つてみると殆ど四季を通じて花を見ることが出來るその他東西の兩廟に花匠あり、北海、萬壽山西山一帶すべて、いかにも花の都である。咲きつぐ順序は大體日本中南部と同じではないかと思ふ。特に北京で眼立つて多いのは丁香（ライラツク）海棠、杏、牡丹、芍薬、合歡の花。珍しいのは故宮の太平花、萬壽山の玉蘭、臥佛寺の沙羅双樹、賣出す花に茉莉と夜來香など。以上春から夏にかけての花である。



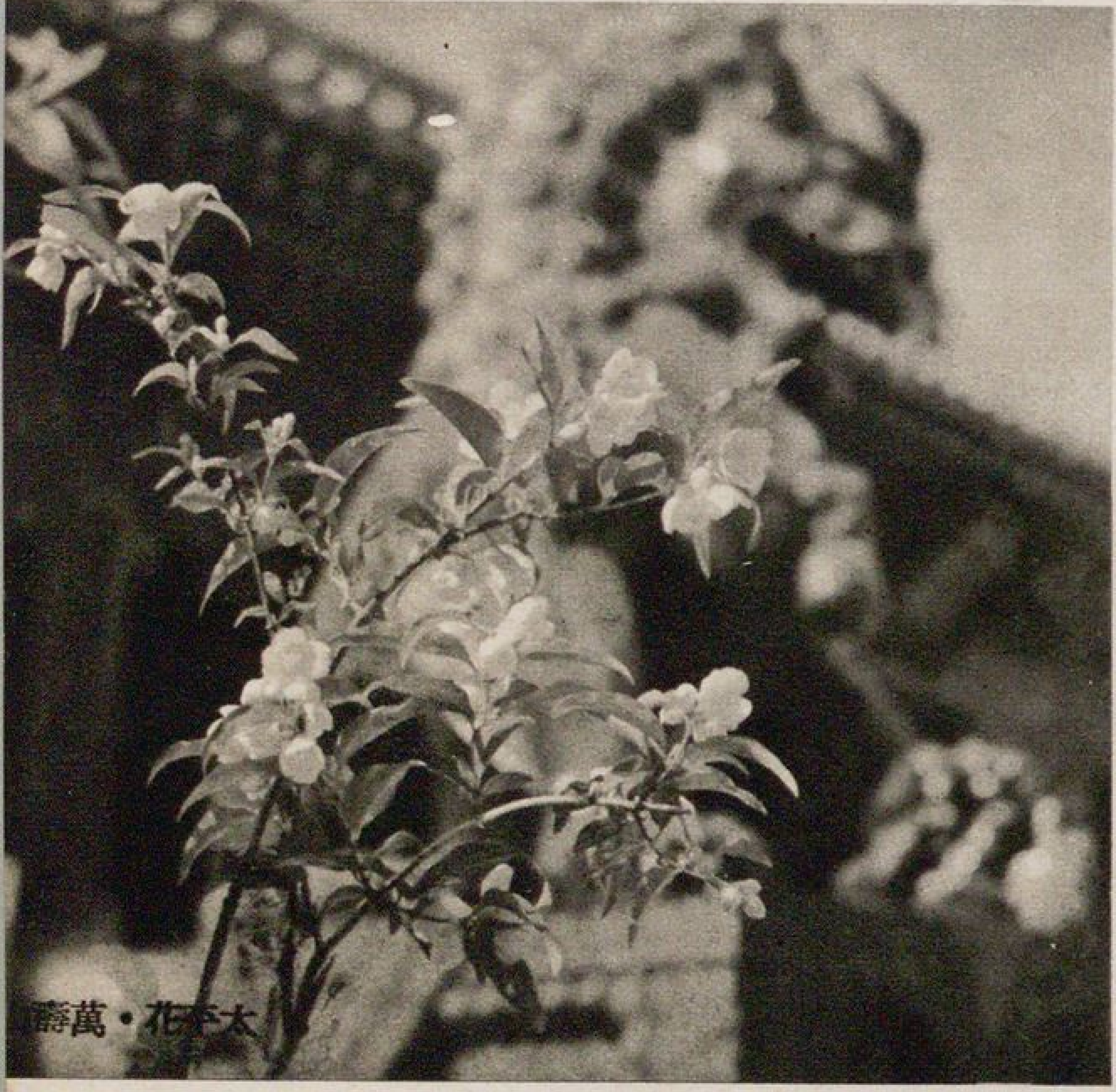
合歡・天安門前



沙羅雙樹・西山臥佛寺



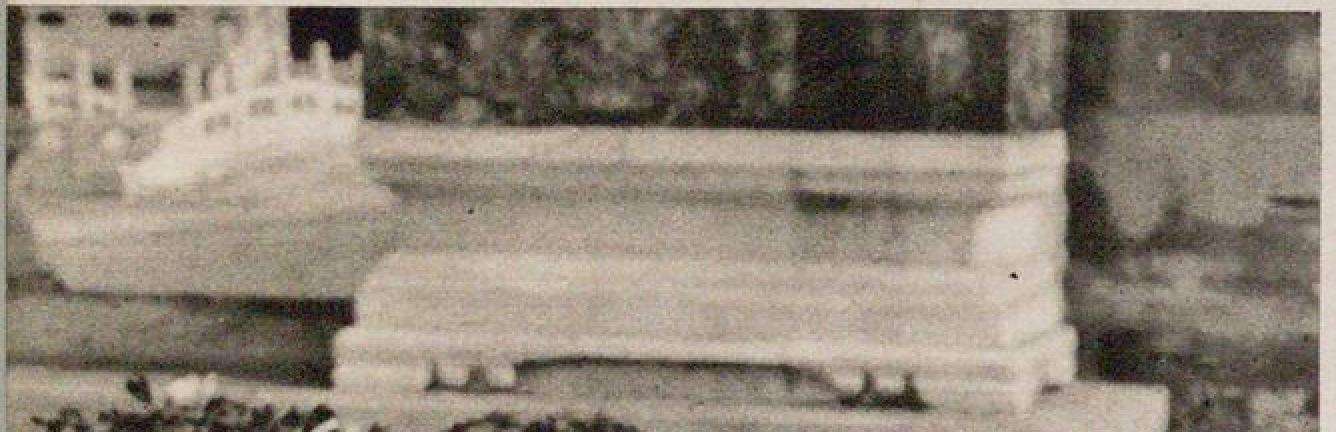
藤・中央公園



太平花・萬壽



丁香（ライラック）・協和醫學校



牡丹・太廟



芍薬・中央公園



拓かれゆく 自動車路

華北交通の經營 延長一萬粁

The Fast Developing Bus Transportation Routes of The North china Railway Company, now exceed 10,000 Kilometers in length

『公共汽車（支那人はバスをかう呼ぶ）が通るやうになつたんで安心して街へ行くことが出來る……』と田舍から街へ買物にでも行くのであらう四十がらみの親爺さんが獨言をつぶやきながら移り行く窓外の景色に見入つてゐる。果てしない華北の平野は昨年の大洪水もうち忘れたやうに春の息吹きに甦つてゐる。點綴する農民の姿も、土にたはむれる鳥の群も、漸く芽を吹きだした麥の色も……。この中を都會と農村部落と部落をむすぶ華北交通の長途バスやトラックが十臺も二十臺も黄塵をまきながら縦列を布いて走つてゐる。鐵道沿線から離れた農村にはまだ何處でも敗殘兵や土匪が出るので、かういふ特殊な連結輸送がなされてゐるのである

その車の中である



山海關──秦皇島間・石河附近

利便を喜ぶ支那の民衆





子供の旅を見送る親



バスの内部

未開地をつなぐ

長途バス

華北交通經營

定員は二十四人であるのに三十人も三十五、六人も乘つてゐる。タンフール（果物の砂糖煮）に頬をふくらせてゐる子供、赤ん坊に乳房をふくませてゐる母親、世間話に打ち興ずる村の若者など世情を忘れた至極なごやかな空氣である。時折りバスが激しく搖れる。つい四、五日前、交通阻害の溝が掘られてあつたのを村民が修理したばかりの處だといふ。過ぎゆく廢墟部落に激戰のあとが偲ばれる

次の停留所につくと守備の兵隊さんや村民たちが車の周圍にかけ集り、今日も無事だつたといふ安堵の表情が見える。飴賣りや果物賣りが右往左往する。連絡報告をすました運轉手は客の整理や荷物の受渡しに汗を流してゐる。列車の車掌や驛の貨物係や出札係の仕事までこゝでは運轉手が一人で捌いてゐるのだ

やがて自動車隊はもとの縱列を組み次の部落を目指してエンヂンをかけるのである。（三十八頁「北支の自動車交通」參照）



旅客をあひての物賣り

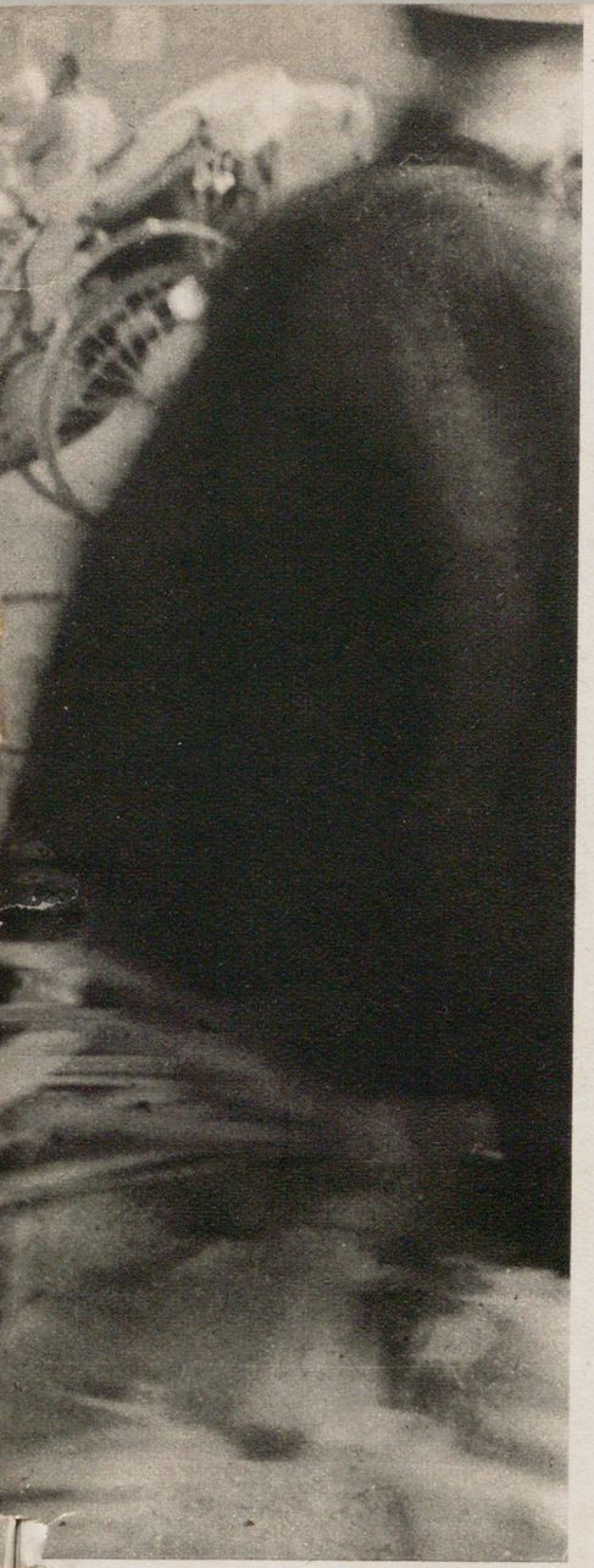


沿線の資源を輸送するトラック

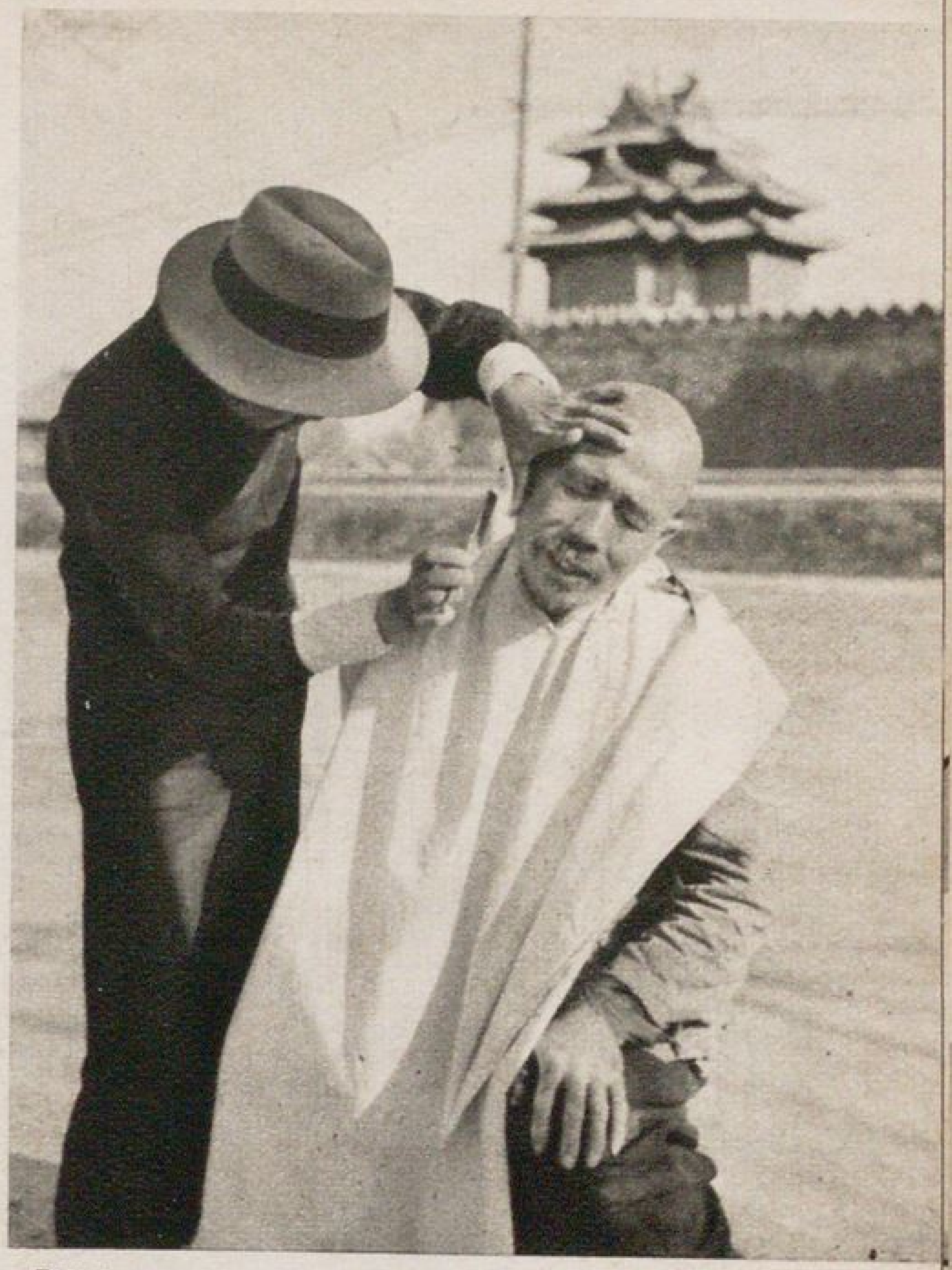


荷物を屋根につんで

The Long Distance Bus Lines of the North China Railway Co., are Harbingers of Light and Civilization into the remote Interior of China

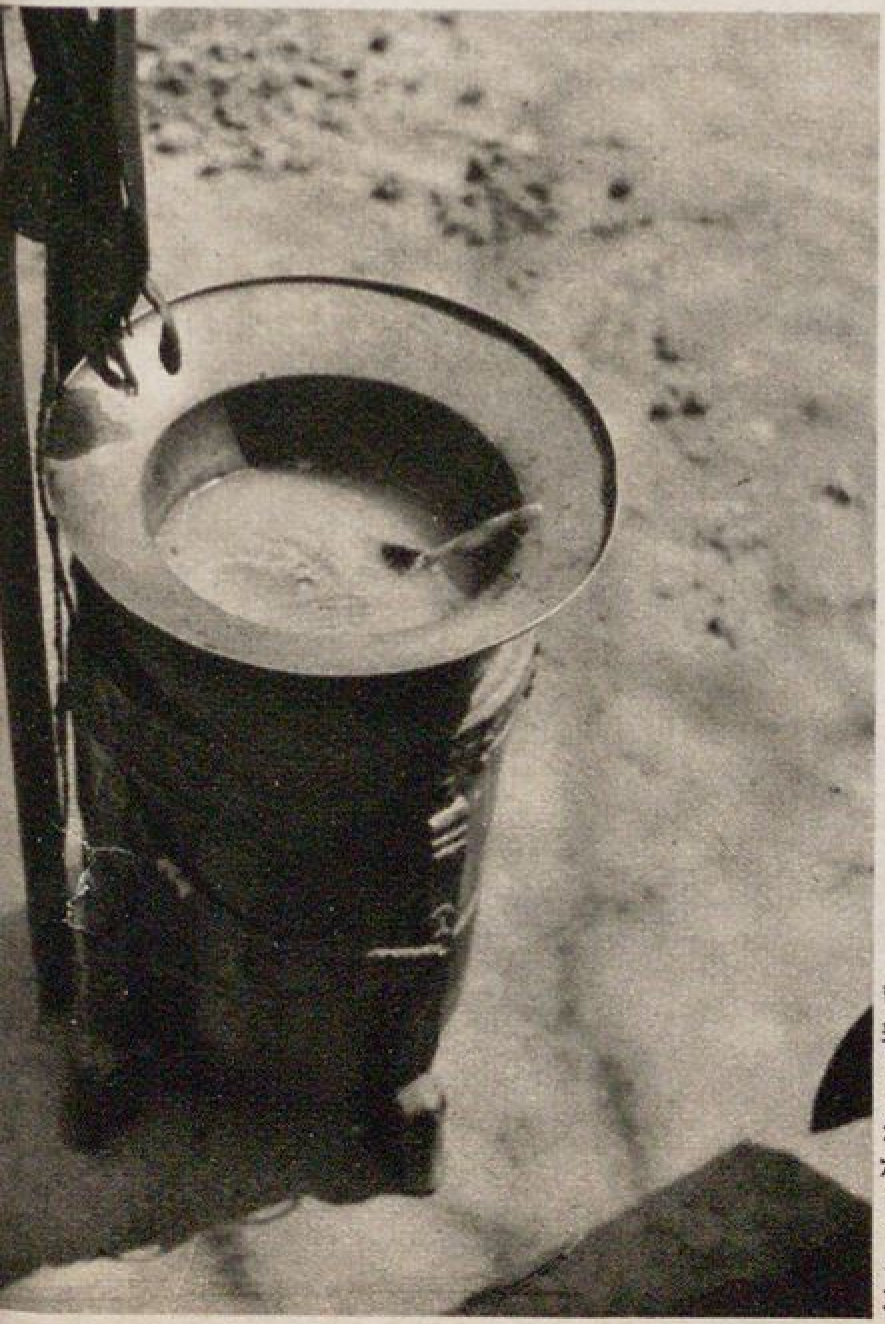


剃頭的（まちのとこや）



のどかな散髪

のんびりと暑苦しくて眠たいやうな、胡同(こうぢ)の眞晝、剃頭的(とこや)さんが來ました。ビイイン……ビイイン……商賣道具を天秤棒に擔いであんまり重たさうでもない、大きな毛拔を片手にさげ、木片を通して彈じき彈じき通ります。お客さんが呼んだら立ちどころに七ツ道具を取出して悠々と仕事にかゝる。所によると溜り場をねらつて同業集つてゐます。どちらにしても天下泰平、事變も汪精衞も何處吹く風やら、睡たいね芝居は三國志の一幕なりと夢に見て、やれやれ汗をかいたと眼がさめたら、ハイ、ぼんのくぼを刷かれます。散髪代はこないだまで三錢だつたのが此頃は十錢位でせう。道具はとても便利調法なもので、前に洗面器、研革、刷毛類、水。後には引出附の腰掛、その中にバリカン、剃刀その他いろいろですタオルも擔げば肩當になり、仕事の時はすぐ役に立つと云ふことで頭を掃除する商賣のせゐか、頭がよいのに感心します



散髪はいかがビイイン



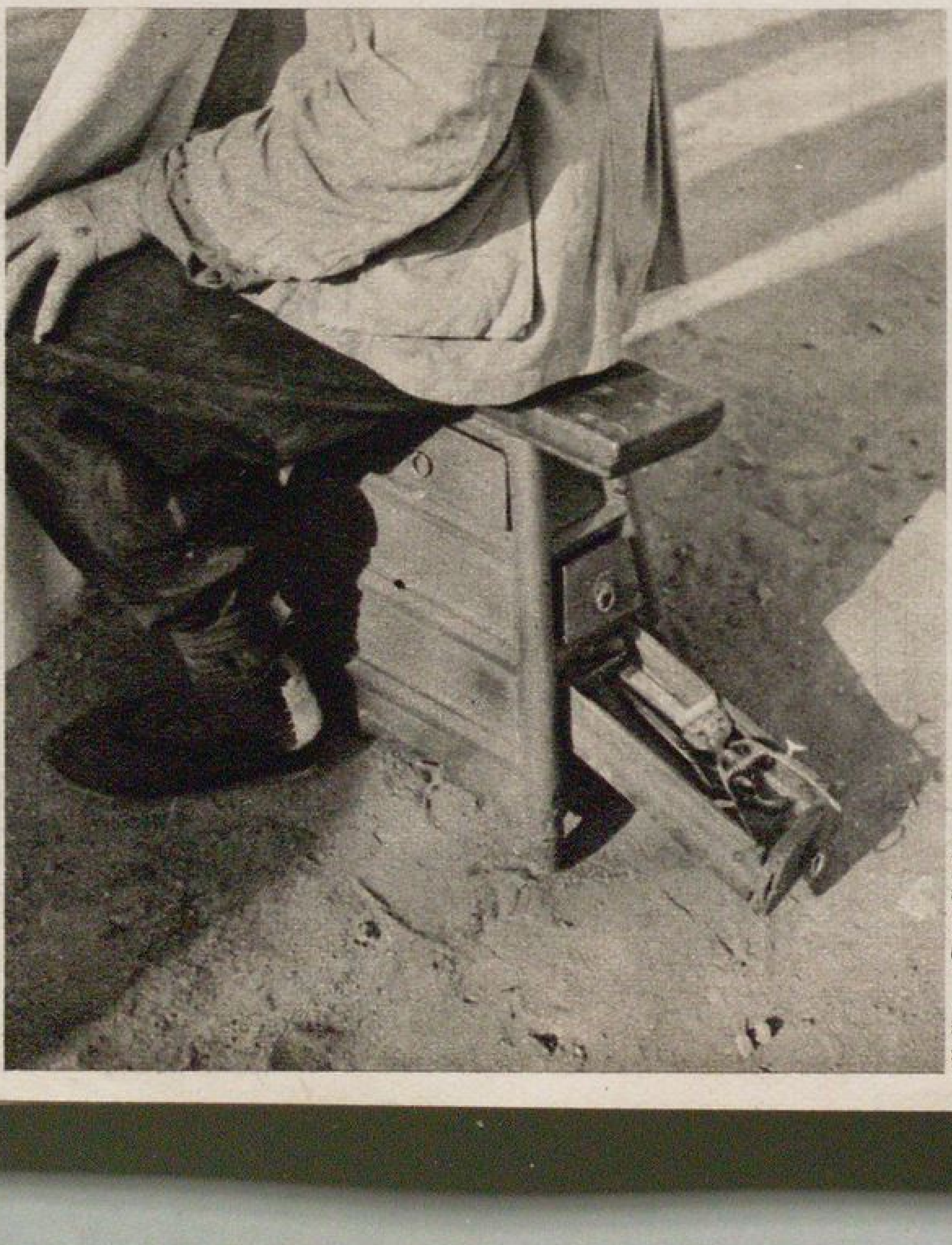


胡同から胡同へ

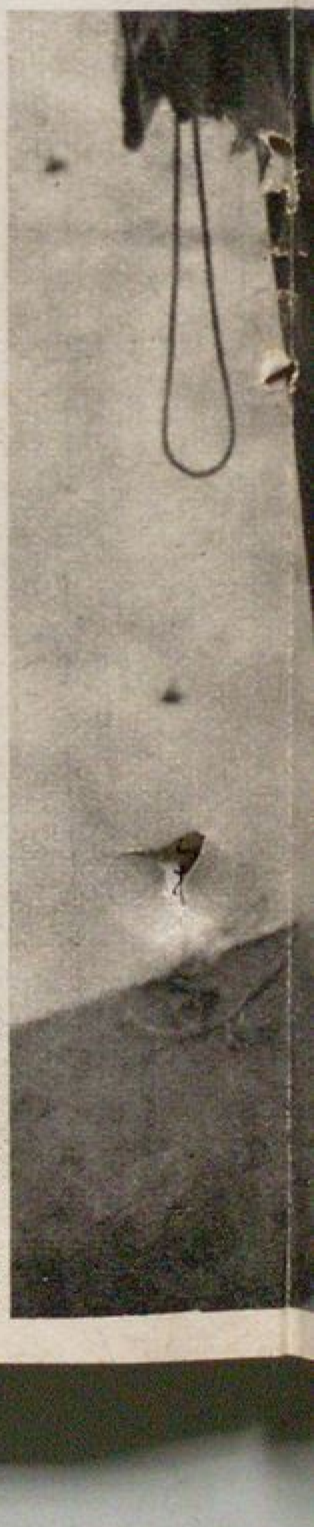


街頭集團散髪

These Tonsorial Artists Give Quick and Cheap Service on the Various Street Corners in the Land of Cathay



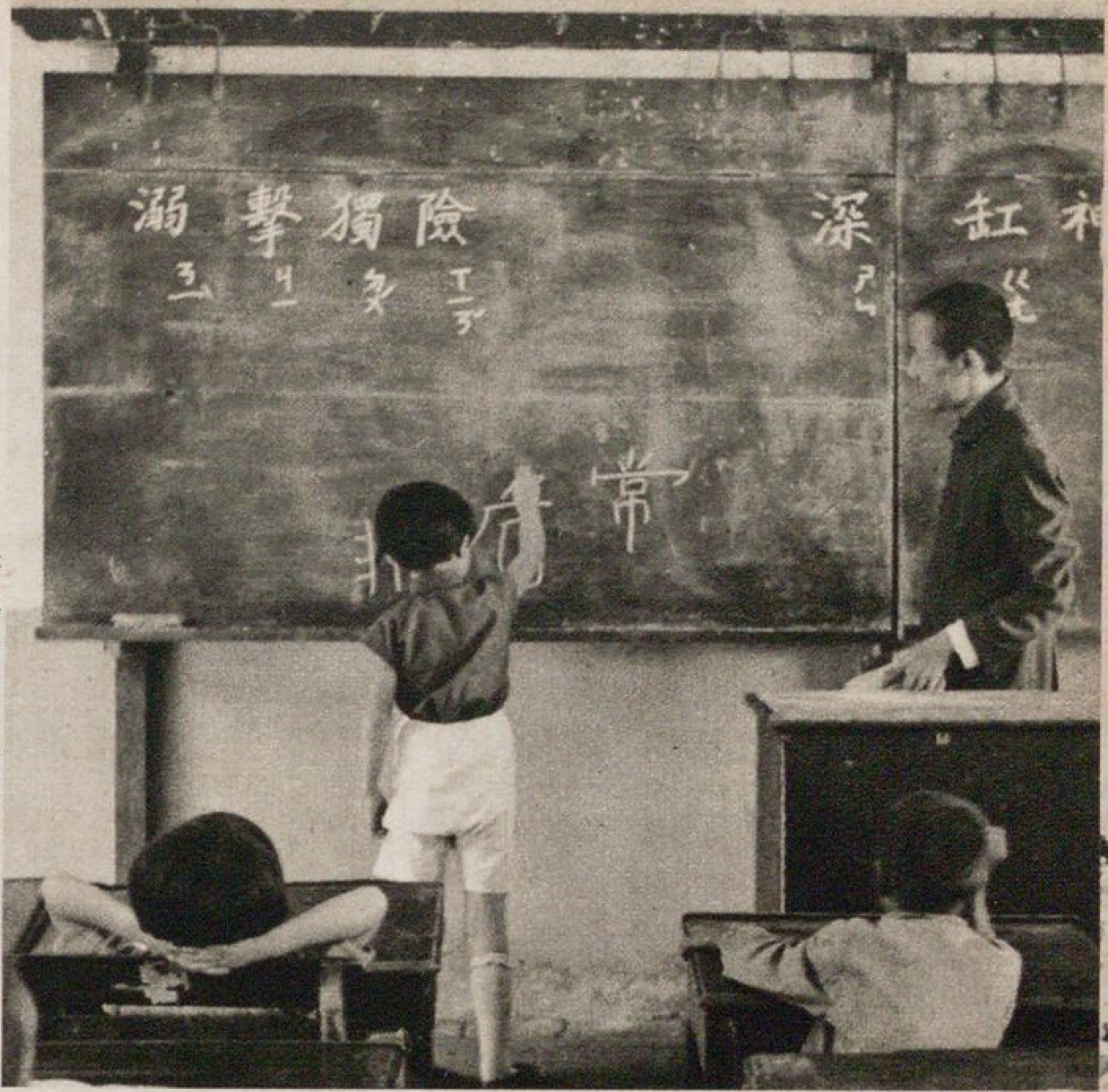
重寶な腰掛



洗面器に刷子と手拭

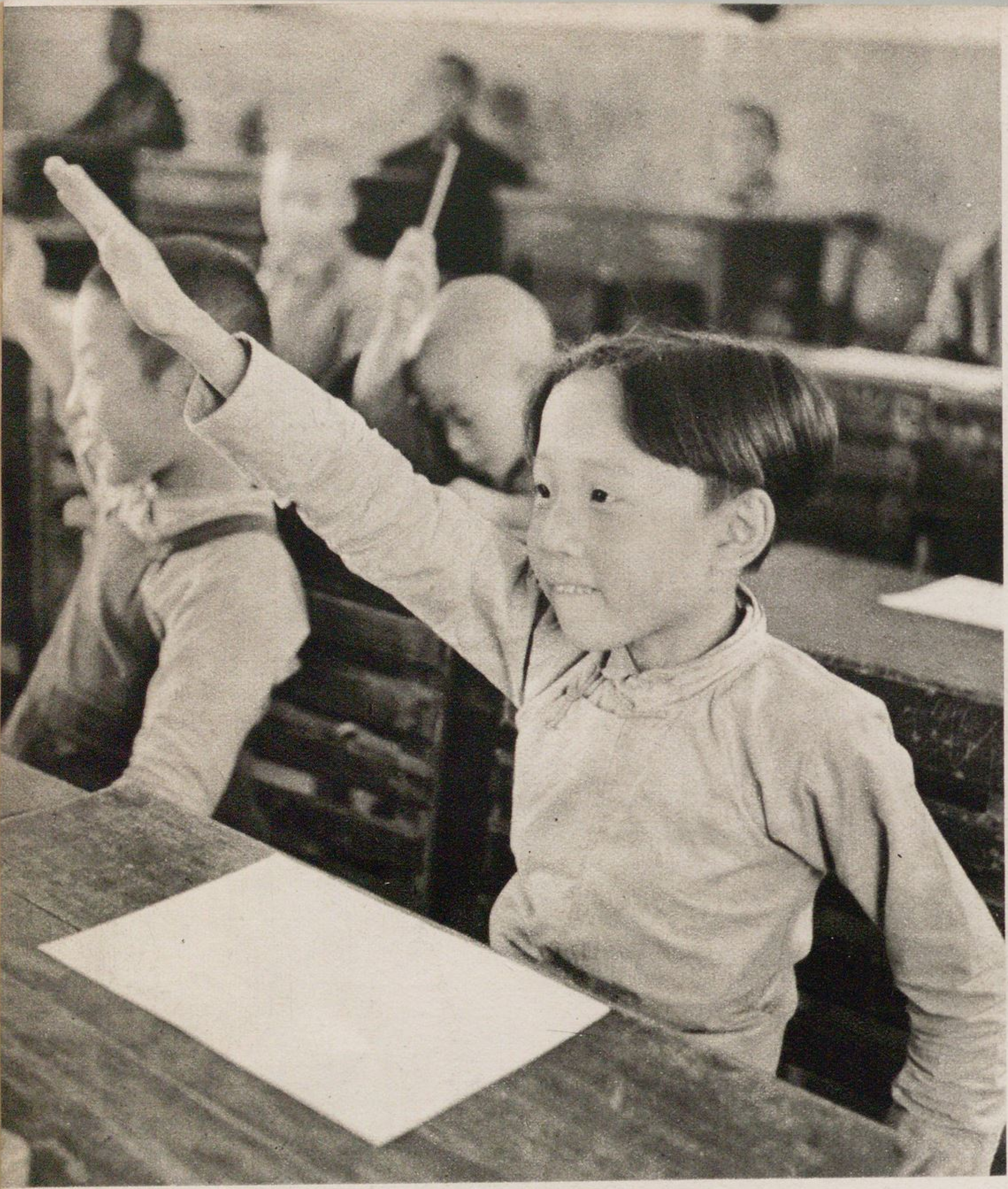


字の下に小さく書いてあるのは發音符號





支那の小學生



元氣に手をあげる生徒

白いワイシャツの袖をたくしあげ紺の半ズボンをうんと短かくはいて自轉車で通學する支那の小學生は仲々いきである。支那の小學校は昔の日本の樣に四年迄が初級、その上二年が高級になつてゐる。初級は六歳から十三・四歳まで、高級がその上十六・七歳迄であるが日本の樣に義務教育でないので一年生に十二・三歳のがまじつてゐたりする

小學校は五六人の生徒しかゐない寺小屋式のから外人經營の設備のととのつたもの迄樣々である

小學校を參觀してさすがに支那だと思ふのは教室に墨のにほひがして試驗の答案を毛筆で書いてゐることである。國語でもあのむづかしい漢字しかないのであるから字劃を覺えるのにお經の樣な抑揚をつけて一齊に歌つてゐる。北京の小學生だけで約五萬人。これらが事變前まで排日教科書により徹底した抗日教育をうけてゐたのであるが現在は毎週少なくとも六時間の日本語の授業を受けてゐる。外人經營の學校も又同じである。これらの小學校の中、最も特色のあるのは華北交通會社が中國從事員の子弟のために經營してゐる扶輪學校であらう。その目的とするところは舊來の交通の面目を一新して次の時代の交通を擔任すべき人を作らうとするので國民普通教育の外に生活に卽した鐵道實務教育が實施される。徹底した親日教育と設備の優秀と相俟つて北支各都市にある二十四の扶論學校が、その地方の模範校となつてゐる

An Off-Hand Study of Chinese Primary School Children

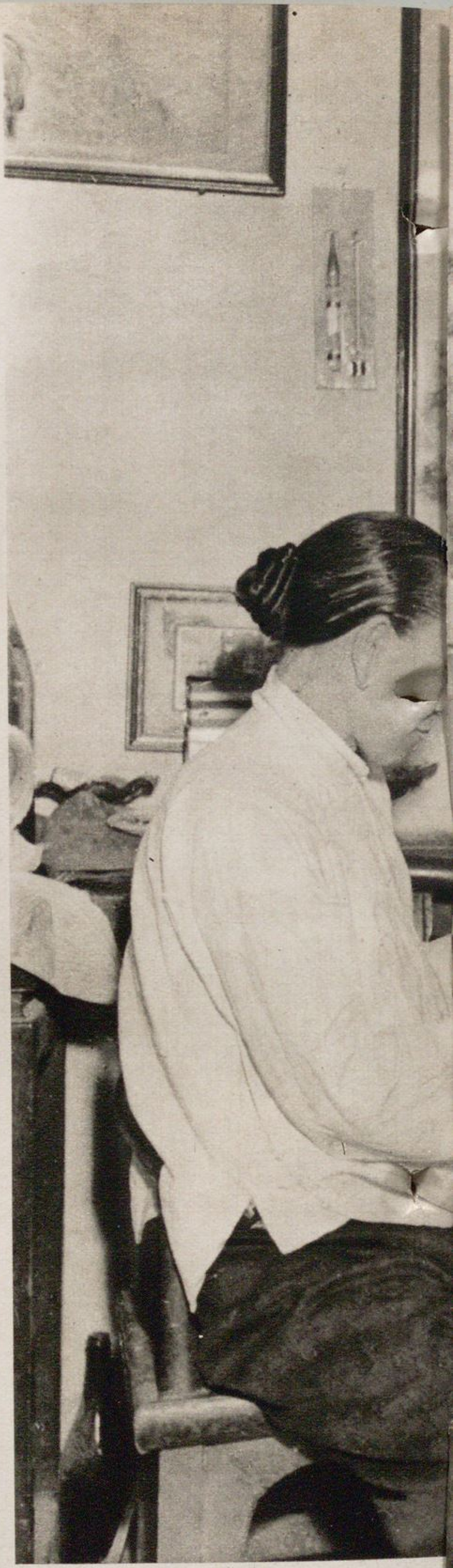


家庭の學童

Home Task .... After School Hours

友達の訪れ（門）





復習

山東省 濟南

膠濟線終點

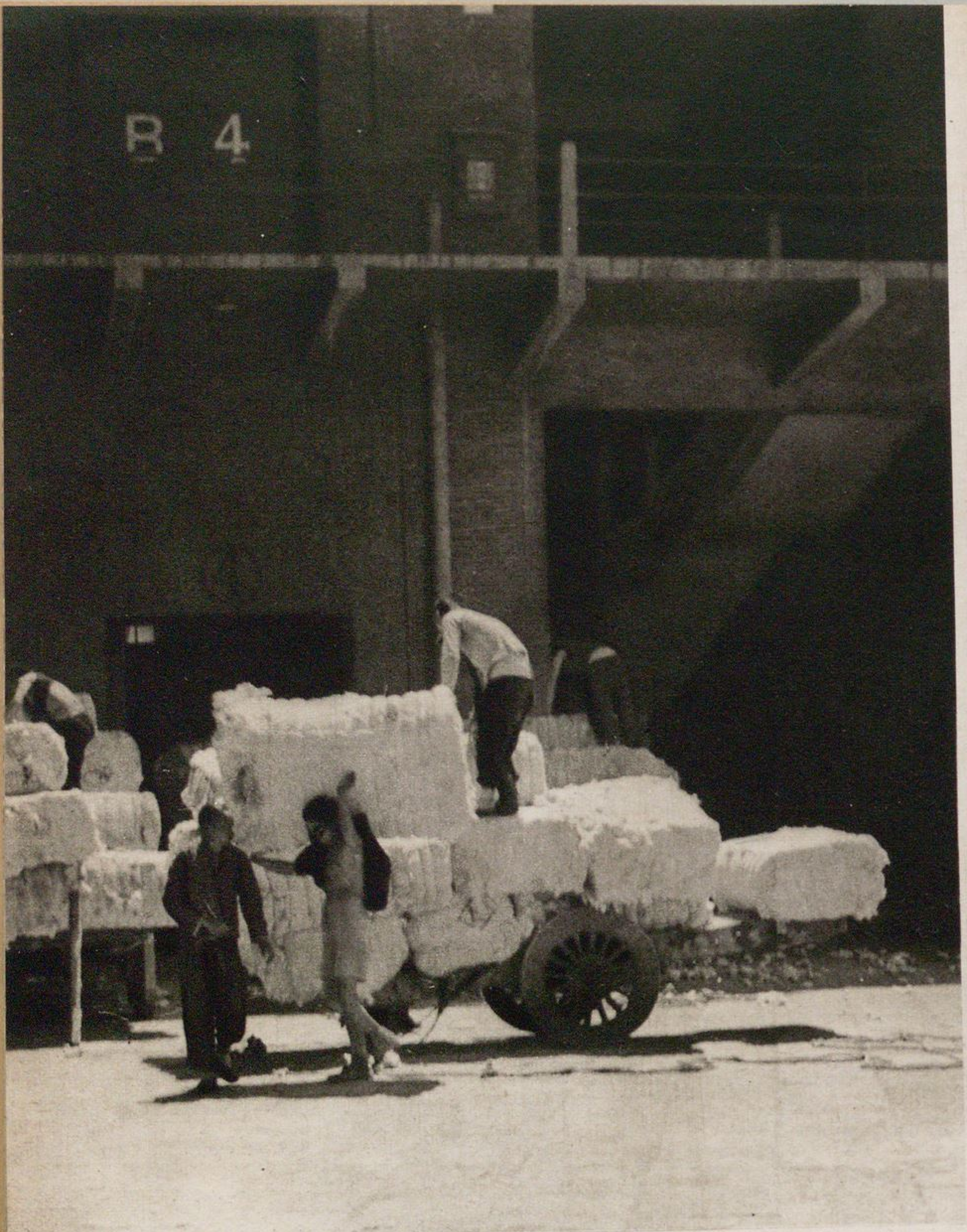




壁に特色ある空氣拔をもつこの地方の民家



水都の洗濯風景



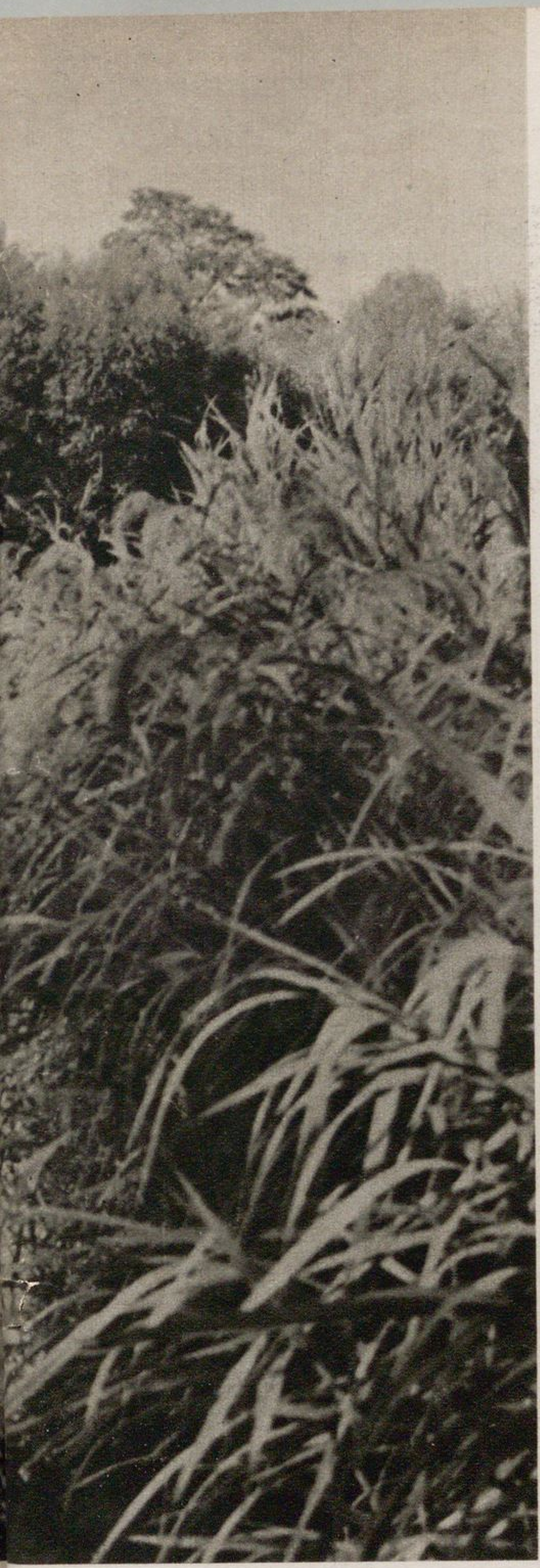
打包工廠・棉をプレスする所



商業・城內商店街

古來水運と車馬輸送の便に惠まれて山東の經濟中心となつてゐたが、津浦、膠濟兩線の開通によつて天津、青島、上海の中心に位置して一躍支那有數の市場となつた。卽ち奧地から出廻つた物資は一應集散市場たる濟南に搬出され、天津、青島、上海三市場の情勢により輸出經路が決定されるので、その經濟勢力圈は山東はもとより河北、河南、江蘇、山西、陝西の各省に及んでゐる。工業は紡績を首位に製粉、電氣マツチ、染料、染織、製紙、石鹼、製革、骨粉、セメント等であるが、紡績製紙、マツチのほかは小規模である。豐富な資源と、交通の便と、低廉な勞力と、廣大な背後地等々の好條件に近來は邦資と優秀な技術が加つて、將來の大工業都市として注目期待されてゐる。人口四十二萬（邦人一萬四千）。北京、天津について北支第三の都會である。春秋時代の齊の地で、東洋文化の發祥地といはれる。上代支那の歷史上の帝王、聖人、偉人はいづれも黃河の流域に輩出したが、濟南はその中心地帶に當つてゐた。濟南の名は濟水（黃河）の南にあるので出たといはれる

City of Tsinan. Terminus of the Tsingtao-Tsinan Line



大明湖

濟南

濟南の城內外は非常に史蹟名所に富み濟南七十二泉中最も有名な趵突泉や昔太公望が魚を釣つたといはれる釣魚臺が、南門外の黑虎泉附近にあり、濟南の隨處に清冽な泉が湧くのは市街が泰山々脈の凹地にあり、黃河の河床が平地より高いため山地からの水流が地隙に捌け口を求める結果であらうといはれる。その他昔舜が耕した傳說に因んで舜耕山（歷山又は千佛山ともいふ）龍洞、鵲山、玉函山、葉山等がある

大明湖・城內の北隅にあり周圍約二里城內面積の三分の一を占める。風光明媚、幽邃な湖で古くから文人墨客が遊び多數の詩を殘してゐる。畫舫（小型六人乘り、一日四、五圓）の水遊びは名高い



蓮の實賣り



畫舫

Taming Lake, Tsinan.





水(シュイ)餃(チアオ)子(ツ)

Mi' Lady Cooking Meat Dumplings in a Typical Chinese Household

何かのお祭とかお祝事があると餃(チアオ)子(ツ)を作ります、日本のお饅頭に當るでせうが、餡こが違ひます。水(シュイ)餃子(チアオツ)も街の飯館(リャウリャ)へ行けば何時でも食はせるし、日本人には一番氣安く親しみ多い食物ですが、一般支那の家庭ではお金持でないかぎり毎日食べるわけではありません。

作り方は、まづうどん粉を捏ね、最初直徑五分位の球にして掌と指先で器用に圓く延す。それに豫め作つた餡を包み、沸立つた湯に入れゆでたら水餃子が出來上るのです。餡の作りにコツがあるやうでそれには豚か牛羊の肉、或は蝦か魚類でもよい。韮か大根、白菜など、とにかく肉と野菜を季節の物にとつてもよいわけです。何れも小さなコマギレになるまでトントントントン庖丁できざみそれを醤油とゴマ油を少し入れて捏ね上げます。この餃子(チアオツ)を油で平鍋で燒いたのが鍋貼兒(クオティエル)（所謂燒豚饅頭）蒸したのが蒸餃子(チオンチアオツ)、熱湯をそいだら湯麵餃子(タンミエスチアオツ)になるので餃子(チアオツ)にもいろいろあるわけです。

〔寫眞說明〕

寫眞の一は嫁さんと姑さんが仲良く餃子(チアオツ)を作るところ。室内調度の支那色と家庭に於ける婦人初夏の服裝にも御注意あれ。

一つは支那家屋の中庭隅によく見る煤球兒爐子(メイチウルルツ)（日本の七輪に當るものでタドンを焚く）と煤球兒籠(メイチウルロン)。水餃子(シュイチアオツ)を茹でてゐるところ



和平、反共、建國

新國民政府生誕



華北政務委員會——北京——

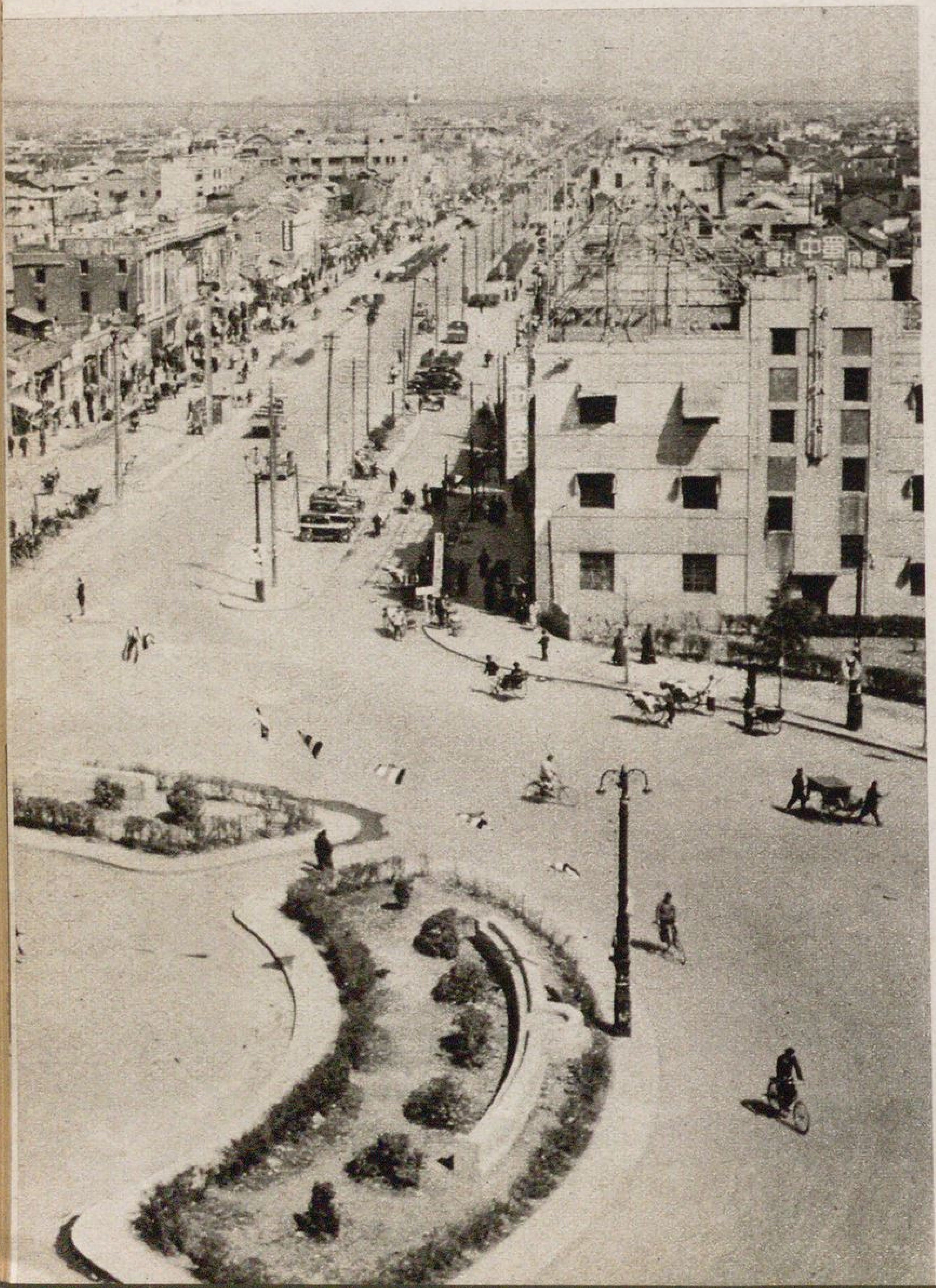
大きな歴史



國民政府主席代理汪精衞氏は華北政務委員會管下狀況視察のため、四月八日還都後初の華北入りをなし、王華北政務委員會委員長はじめ日華要人出迎の裡に空路北京に到着した。

和平反共建國の大旆を揭げて、新國民政府は生誕した。靑天白日滿地紅の旗も輝かしく新政府は三月三十日、南京に還都、日華提携の基礎のうへに、興亞建設の大理想に邁進することゝなつた。この日、午前十時、國民政府大禮堂において晴れの國民政府還都典禮が執行された。定刻、國民政府主席代理汪精衞氏以下各院部長官の着席終るや揚子江上の支那軍艦から擊出す二十一發の祝砲が殷々として轟きわたり、式典の幕は莊重嚴肅裡に開かれた。國歌奏樂、國旗揭揚を行ひ、續いて汪主席代理は步を運んで孫文像の前に立ち總理遺囑を敬讀、次で院部會各長官の就職式が行はれた。最後に汪主席代理は正面演壇に上つて歷史的國民政府還都宣言を宣讀、こゝに新國民政府は新東亞建設の輝かしき第一步を踏み出した。この歡喜、感激に首都南京は全市民を擧げて慶祝に沸き立つた

これに伴ひ中華民國臨時政府は幾多の功績を殘して解消、華北政務委員會が設立せられ、王克敏氏が委員長に就任した



新政府首都——南京——

小さな歴史

Photo Flashes From North China

石炭自動車現る

北支に石炭自動車が出現しました。――正確には石炭瓦斯發生爐附自動車といはれるもので、こんど華北交通會社で試驗的に使用したが、大變結果が良い。一粁當り約一錢の燃料費で濟むし、石炭の豐富な大陸では持つて來いの國策型である



愛護村長の訪日

「戰時下日本の國威と進歩發達した產業、文化を見聞しよう」と華北交通會社所管の鐵道愛護村長十六名が四月十日朝、北京發訪日の途についた。











櫻の親善使節

鐵道省國際觀光局から北京市公署に贈られた二千六百本の櫻が無事到着した。四月五日、植樹節を期して、萬壽山でこの櫻親善使節の植樹式典が擧げられた



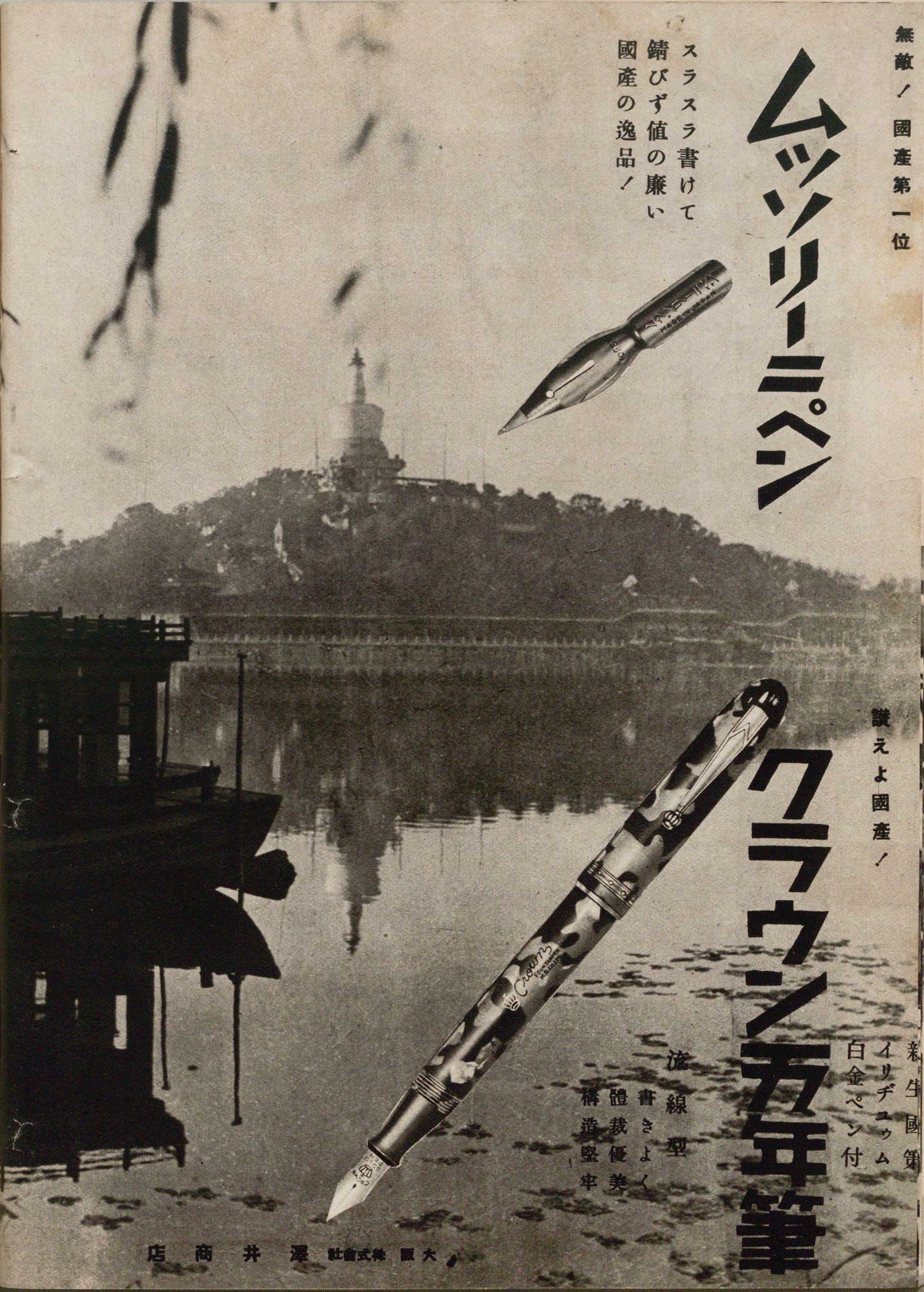
北京・前門站の貨物の山

興亞建設のかけ聲に大陸に押しよせる人と物は全くおびたゞしい。特に、北京の前門站は貨物專用驛として大陸各地と日滿との間に發著する貨物で山をなしてゐる

東海ホテル開業

北支蒙疆の鐵道、自動車、水運を總攬する華北交通會社では東洋のナポリといはれる觀光都市青島の代表的ホテル、エッジ・ウォーターマンションを買收東海ホテルと改名の上六月一日から直營する





無敵！國産第一位
ムッソリーニペン
スラスラ書けて
錆びず値の廉い
國産の逸品！
讃えよ國産！
クラウン万年筆
新生國策
イリヂユウム
白金ペン付
流線型
書きよく
體裁優美
構造堅牢
大阪 株式會社 澤井商店

オルドス地方

後藤富男

包頭から寧夏方面に赴くには、黄河の北側に沿うて迂回する道と、河の南方オルドス高原を斜に突切る道とがある。けれどもオルドスを横切る方は黄河を二回渡らなければならないのと、沿道の地勢に阻まれて、一般的な通路にはなつてゐない。

從つて、嘗つての新綏汽車公司は勿論、隊商の往來する路線も悉く北方にあり、マルコ・ポーロの昔から、近くはヘディン、ティチマン、ラティモア等の踏破した道も、すべてアラシャンを經由する北方路であつた。

寡聞な筆者はオルドス路を通つた旅行者としては、一八九四年熱河を發つて西藏に到る大旅行を敢行したラザロ派の神父ユック及びガベーと近くは民國二六年西北行を企てた上海申報の記者陳賡賀の兩者を擧げ得るにすぎぬ。

尤もこの地に長く居住してカトリックの傳道に從事したヴァン・オオストやオルドス國語文法を著したスーリエ等、著名な人々は少くない。また西南隅、陝西との境にあるシャラ・オッソ・ゴルは、舊石器時代の遺跡として重要な地點で、ドゥ・シャルダン等の考古學者が訪れて居り、「蒙支邊疆のスポーツと科學」の著者C・サワビイは延安からオルドス南境に足を踏み込んでゐる。

然し、何れにしても黄河北方の沙漠路が比較的よく紹介されてゐるに反して、オルドスそのものは殆ど神秘の幕に閉されてゐると言つても過言ではあるまい。

皇紀二千六百年の初頭を飾つた皇軍の西北作戰、大部隊のオルドス高原突破は、かうした意味からも劃期的な華華しい意義が認められる。

☆

オルドスと云ふ名稱はオルドといふ蒙古語から出たといはれ、これには「宮殿・陣營」といふやうな意味がある。

つまり、ハガン（汗＝君主）の龍庭といふわけであるが、何故さう言ふかは殘念ながら判らない。恐らくは漢代以後の古城址が多くさうした處から出たのではなからうか。包維翰といふ蒙古人の「全蒙盟旗沿革誌」には『宗廟を掌る義で、初め太祖宗廟典禮のことを掌らしめたるによる』とあるけれども、その故事は明かでない。何れにせよ、オルドスは部落名で、清朝以來これを一盟とし、七旗に分けてゐる。すなはちイフ・ジョー（伊克昭）盟といふのがそれだが、イフは蒙古語で「大きい」の意、ジョーは西藏語で「廟」にあたる。

清の理藩院則例に『イフ・ジョー境内にチンギス汗の園寢あり云々』といふ文句があり、之が『大廟』の名の由來であると言はれるが、これに對しては、明代の蒙古英雄ダヤン汗が祖宗追念の篤志から、この地に八白室を造り、汗號をつぐものに必ず此處に詣らしめた（須佐嘉橘氏）からだとする反駁がある。

☆

オルドスの面積は大體ベルギーの五倍といふから十五萬平方キロとみてよからう。

北方は黄河の大きな半圓に圍まれ、南は萬里長城によつて陝西省と境をなす、蒙古最南端の地域である。オルドスと云へば、殆ど全部が沙漠のやうな印象を與へるが、黄河に沿うた黄土の地味豐かな農耕地、青草の生えるステ

内容

ップ(草原)、高峰なす連山が相當廣く占めてゐて、寧ろ沙漠は多くない。

リヒトホーフェンは東部草原、西部沙漠、後套平原の三つに分類してゐる。そして黃河の溪谷は勿論、五原を含む黃河舊河床の平原はある程度の雨量もあり、水利の便があつて、農業は良く發達してゐる。西部にはククプチ沙漠が橫つてゐるが、鹹水湖やツアイダムも多數點在してゐる。

☆

住民は蒙古人約十五萬、漢人十萬餘、これに少數の回敎徒がある。元來が太古より北方の遊牧民族と南方の漢民族の鬪爭の舞臺をなしたところで、はつきりと蒙古人の天地となつたのはヂンギス汗以來のことである。

清朝以來、漢人の蒙地進出は凡ゆる禁制を冒して、あたかも水の浸み込むやうに行はれたが、オルドスの如きもその最初の被害地域の一つであつた。すでに百年前、この地を踏破したユックク神父は、大規模な漢人侵蝕の有樣を生き生きとした筆致で傳へてゐる。

かうした民族雜居の混亂地帶であつたためか、オルドスの蒙古方言は支那語の影響によつて單純化され、ヴォキャブラリーにも支那語が多く、民謠なども漢人的要素が顯著である。

現在、嘗ての農牧地は耕地に變じ、黃河の畔をなす肥沃地帶は全く漢人の占める所となつて、後套の五原縣、臨河縣の外に、河の南方には東勝、沃野二縣が置かれて、入植の據點をなしてゐる。

☆

廣大な肥沃地を有するとは云へ、砂地は夏の日中には木蔭でも三十五度、砂は七十度に熱せられる、そして冬は大黃河の全く凍結する零下四十度のオルドスに、どんな資源が藏されてゐるであらうか。

砂丘は花に蔽はれ、オアシスは辛じて牧草地となつてゐる外、荒寥たる草地であるが、東部黃河河谷に沿ふ平地には小麥、大麥、蕎麥、稷、野菜を產する。後套地方は黃河支流と溝渠の發達とによつて、バインタラ盟を含めて西洋好きの日本人から、亞細亞のウクライナと云はれる程の穀物の大產地を成してゐる。

殊に甘草の栽培は非常に盛である。甘草はオルドスの如き炎熱の砂礫地に良く成長し、漢人の資本下に蒙人も共に働いて所謂西草と稱される甘草を多量に出す。

牧畜に關しては、他の蒙古地方と同樣に盛であるが、嘗て淸の康熙帝をしてチヤハル地方に比肩すべきものと賞嘆された時代は過ぎたやうである。卽ち黃河沿ひの溪谷、オアシス、良牧草地は漢人の壓迫を蒙り、蒙古人は中央の沙漠地方に壓迫されてゐる有樣だ。また他の種々な條件による蒙古人勢力の減退は、牧畜の盛大を次第に失はしめた。然し、なほ羊九十五萬頭、牛四萬頭、馬三萬頭を有し、この他漢人による豚の飼育が一萬頭と算へられる。

オルドスで特記すべき資源は天然曹達と鹽である。之はオルドス高原の中央部より西部にかけて到る所に露出してゐる。嘗て海底と推定され、現在無數の鹽湖があつて、鹽の結晶體が敷きつめ、溶解して噴出したものを採集して搬出してゐる。天然曹達の蓄積された地域は非常に多く、舊曆二月下旬より八月頃まで、結晶の噴出せるものを搔き集めて搬出する。仕事に實際たづさはり運搬してゐるのは主に山西省の漢人である。年額九千七百噸と云はれるが、交通機關の整備の上は無盡藏に近い埋藏を開發し得る。

☆

オルドス蒙古人は旗王たるヂヤサックを中心に貴族、平民、僧侶が蒙古獨自の封建制に立籠つて居り、全民族が喇嘛の誦する西藏經典に無上の法悅にひたつてゐる。

だが、この草原の三昧境にも、一九三四年にはモスクワ大學出身の蒙古人が指導者となつてドグイルンと稱する赤化運動が一時行はれたことは注目されねばならない。なほ看のがし得ないのはキリスト敎勢力の進出である。景敎の昔はさておき、現在では喇嘛廟百餘のうち少からざるものが廢棄されてゐるのに對し、キリスト敎會堂は主なるものが二十三箇所にのぼつてゐる。殊にカトリックの勢力が大であるが、嘗てユック神父をして『何時の日かこの荊棘の荒野に神の福音を傳へ得ようか』と嘆ぜしめた昔と比べて感慨を禁じ得ざるものがある。臨河の敎堂最も大きく、また神父にはベルギー人が最も多い。オルドスの四圍は至る所に十字架が聳え、附近一帶に廣大な所有地を擁し、さながら敎會租界の觀を呈してゐる。信徒約一萬の殆んど全部は蒙古人ならずして漢人である。外國宗敎の奧地進出が殆ど常に漢人の進出を伴ふことは注目すべき現象である。

蒙古人のオルドスは今や漢人に包圍されてゐる。彼らは民族の黃金時代の夢を抱きつゝ瘦せた牧地に羊群を追つてゐる。しかしこゝにもやがては新しい希望の光が東方からさすであらう。



北支の水運

中村　英

支那に於ける水運の交通運輸上の重要性は主として中支、南支についてのみ謂はれ、北支の水運は南船北馬と謂つた言葉さへある樣に、とかく輕視されがちである。事實北支の水路網は揚子江を中心とした中南支のそれとは全く比較にならず、六萬五千キロに及ぶ支那全水路に於いて、北支の占むる部分は僅かに六千キロ、十分の一にも及ばない。

併し乍ら北支に於ける水運のもつ役割は決して無視さるべきものでは無く古來北支水路は奧地物資の輸送路として、大きな役割を果して來たものであり、又陸上交通機關の發達した今日に於いても尙處によつては兩者間の相剋をさへ惹起して居る。

◇

先づ北支に於ける可航河川の主なものを擧ぐれば、冀東地區の灤河、薊運河、天津を基軸とする北運河、海河、大淸河、子牙河、南運河、山東省では小淸河、黃河、山東南運河等であるが、就中薊運河、大淸河、子牙河、南運河、小淸河は水運價値大である。

薊運河　冀東地區內水運網の幹線をなす薊運河は、金鐘河を經て天津に連り、又煤河によつて胥各莊に達する。本河本支流の沿岸は大部分鐵道を離れて交通不便な地區が多い爲、水路は唯一の交通路として絕對的優位を占めて居る。煤河は光緖年間開平礦務局が其の石炭の搬出路として開鑿したものであるが、鐵道の開通後は水運は人爲的に統制せられ、僅かに薊運河流域の需要炭のみの輸送に限られて居る。

北運河　通州、天津間百四十三キロ間を北運河と稱し、その昔、大運河の一部として北京にまで通じてゐたものである。その上流白河は順義まで舟運がある。本河は近時河道淤塞し、又北寧線にその勢力圈を奪はれて、其の水運價値は著しく減殺されて居る。

大淸河　本河は八達嶺山中に源を發し、小淸河、南北拒馬河、趙王河を合し、第六堡附近で子牙河に合流して海河に注いでゐる。

本流は白溝河鎭まで大型民船の遡航可能であり、支流趙王河は白洋淀、府河を經て保定に連り、減水時にても三〇噸民船の通航可能である。

本河は京漢鐵道とその勢圈分野を異にし經濟水路として重視されて居る。

子牙河　滹沱河、滏陽河を獻縣に合せて海河に注ぐ本河は津浦、京漢兩鐵道の中間地區を縫ふ交通幹線をなして居る。但し滹沱河は荒廢河川であり、僅かに增水時小型民船が柳林舖（石家莊北方）に通ずる程度であり、良水路とは謂ひ難い。滏陽河は增水時京漢線磁頭鎭にまで達し、平水時に於いても新河まで中型民船の航行可能である。

南運河　本河は北京、杭州間千六百キロに亘る大運河の一部をなすものであるが、前世紀中葉黃河の北流に伴ひ臨淸黃河間淤塞し、南北の連絡を絕たれ、現在は衞河を水源として流れて居る。本河は北支第一の水路をなし、天津臨淸五百四十キロの間は百噸民船の航行自由である。德縣以南の本河は鐵道と併行する競爭線をなし、一九三一年釐金稅の廢止後、津浦線の鐵道貨物

はその九〇%までが本河に奪はれたとさへ謂はれてゐる。

黄　河　青海省に發源し、九省を貫流し、渤海に注ぐ流長四千七百キロの大黄河は支那第一の暴河として古來厄介視されて來たのであるが、その航運は上流包頭、寧夏間、下流濼口（濟南の河港）を中心とし、下流利津上流臨濮集に至る間が可成り重要性を有つて居た。現在は所謂新黄河の出現により下流の航運杜絶し、水運價値は全く失はれた。

小清河　濟南の湧泉に源を發し、羊角溝から渤海に注ぐ全長二百七十キロの本河は膠濟線敷設前にあつては渤海から山東省域濟南に達する最短距離の交通路として重視されたが、同鐵道が敷設されてからは其の價値は世人から忘れられ、僅かに北山東の補助交通路として附近住民の利用にとゞまるのみであつた。昭和七年山東省建設廳は渤海から濟南へ二百噸級汽船の廻航を目標とした大規模な計畫の下に浚渫工事に着手したが、事變前既に工事は停止されて居た。

山東南運河　大運河の一部をなすものであり、東阿、台兒莊二百九十キロの間を山東南運河と稱して居る。本河は十九世紀の中葉、北方と相通じなくなつてからは漸次交通路としての役割薄弱となり、僅かに濟寧を中心として局部的な交通が行はれて居るに過ぎない。（註記、海河は天津港港域として玆には觸れないこととした。）

◇

之等諸水路に於ける航運の主動力をなすものは民船（戎克船の總稱）であり、その數、約二萬と推定せられて居る。大きさは積載量百噸を超ゆるものもあるが、天津を中心とする諸河川の航行民船は概ね三〇噸―六〇噸程度の中型船が多く、その他の河川は概して小型である。大型船の航行は南運河に多く見受けられる。

民船の船型には對漕子、改巧、槽子等の種類があり、就中對漕子は代表的なものである。黄河上下流には特殊の船型が見受けられる。船型に就いての詳述は玆では省略する。

民船所有者は大部分船頭であり、永年の顧客を相手として夫々輸送に當つて來た。これら業者の間には從來統制機關といつたものは殆どなかつた。ただ清朝の運糧船を引請けた事に始まると謂はれる水運業者の俠客的な祕密結社、所謂「青幇」が水運業者相互間の連絡を保持して來たものと謂はれる。

汽機船の運航は極く少數且つ局部的であり、旅客の輸送のみを目的としたものに過ぎない。汽船業として見るべきものには天津市直營の内河航運局があつた。同局經營路線は海河（天津―大沽間）南運河（天津―泊頭間）子牙河（天津―沙河橋間）大清河（天津―新安間）の四線であり、十噸級小蒸汽船十二隻を配してゐた。

◇

上記諸河川に於ける輸送貨物の主なものは沿岸移出品として豆類、苞米、高粱、小麥、落花生、棉花、棉實、葦、葦席、果實等があり、沿岸移入品としては麥粉、砂糖、煙草、石炭、燐寸、石油、セメント、綿糸布其の他雜貨等がある。これら諸物資の事變前に於ける水運による動きは天津を中心としたもの年間出入約一三〇萬瓲に及んで居り、天津の鐵道發着貨物數量一八〇萬瓲―一九〇萬瓲（民國二十三年―民國二十四年）と對比して上記水路輸送量は決して輕視さるべきものではない。

尙濟南を中心とする黄河、小清河の水運貨物は事變前年間出入計六〇萬瓲に及んで居り、就中黄河は津浦、膠濟兩線の有力な培養線をなして居た。

◇

次に北支の水運に最も關係の深い運河計畫の問題に若干觸れて見よう。

運河の開鑿乃至改修計畫に就いては治水計畫と關聯して早くから論議されてゐたのであるが、その代表的なものとしては民國二十三年全國の水利機關を統合して組織した運河整理討論會の發表したものがある。

即ち運河整理工程計畫と稱するものであり、大運河を整理して水深三メートル、河幅十六メートルとし、三百噸船舶の航行を目標としたものである。

尙上記の外に華北水利委員會の計畫した石津運河、即ち天津から子牙河、滏陽河を經て石家莊に通ずる水路の開鑿計畫、又前述山東省建設廳の小清河改修計畫等があつた。

事變勃發後は專ら治水計畫が鐵道の整備と相並んで第一義的に考へられて來たのであるが、最近の新聞報道に依れば、治水と併せ考慮せられた左記運河計畫が發表せられて居る。

即ち所謂石津運河計畫と稱するものであり、石家莊から子牙河を利して天津に通ずるもの、及び子牙河と分れて馬廠減河に連り大沽に通ずるものであり、工費約八千二百萬圓が見込まれてゐる。

一は京津運河であり、北京―天津間を繋ぐ運河として工費一千萬圓が見込まれてゐる。

北支の自動車交通

春日部　一

人口に對する自動車車輛數割合はその國の文化的地位乃至産業發達の程度を示すと謂はれてゐる。

世界各國の自動車に關する統計その他の文獻は可なり多く見受けられるが、北支に於ける自動車交通に關しては餘り知られてゐない様である。

北支の自動車と謂へば先づ華北交通會社の經營する自動車運輸事業がその全部であると言へよう。この會社は北支、蒙疆の鐵道、自動車、水運竝にその附帶事業を綜合經營するために昭和十四年四月設立された會社であつて、その經營する自動車路線は、本年四月末日現在に於て一〇、五五二キロとなつてゐる。之等の躍動する綱細管を北支一帶に張り廻らし、軍事、產業、政治、文化等凡ゆる部門に多大の貢獻を爲して支那の更生を促進せしめてゐるのである。この急激な發展は勿論今次支那事變の戰果を付託された交通會社の努力の賜物であるが、これより先き日本の大陸進出の先驅となり足場となる爲の日本資本に依る自動車交通事業は既に事變前から實行されて居たのであつた。

◇

滿鐵が祕かに北支自動車事業の諸計畫を樹立し、山海關から經營のスタートを切つたのは昭和十年のことであつた。

各國の支那に於ける權益獲得の對象は鐵道に集中され、この輸送路から放散する妖氣は遂に中國政府をして將又支那民衆をして視神經を狂はして終つたのである。對日壓迫は㴱々と我國を脅威して滿洲事變を惹起し、その結果滿洲國が各國の猜疑嫉視の中に健全な獨立を見せたのであつたが、國民政府は第三國の示唆によつていよ〳〵抗日政策を徹底させ、冀察政府（主席・宋哲元）をして其の去就に迷はせ、ソ聯は亦此の機乘ずべしと外蒙方面に恐るべき赤手を伸して來るといふ樣に、日本の支那に於ける諸情勢は惡化するばかりである。玆に於て我國は幼き滿洲國の安全を冀念し、各國の經濟壓迫及赤魔から自己を防衛する爲何等かの準備と對策を講じなければならなかつたのである。

凡そ重要國策の先驅となり根幹となるものは交通機關であるが、この場合にも當然に先づ奉山鐵路（奉天、山海關間）及京山鐵路（山海關、北京間）の外、滿支國境の數據點からする自動車に依る交通が選ばれたのである。日本の特殊使命を擔ひ、悲壯な決心を堅めた自動車從業員は亞細亞の風雲を望んで敢然活動を開始したのであつた。

當時錯綜する北支の政治情勢の渦中にあつて凡ゆる苦難を克服反撥しながら冀東、蒙疆地區に開拓した自動車路線は事變前既に七〇〇キロに達してゐたのである。この自動車運營の主體は華北汽車公司と稱する滿鐵の分身であつた。（華北汽車公司は華北交通會社設立と共に之に併合された）

華北汽車公司は自動車に依つて主として滿洲國と冀東及蒙疆とを結ばんとしこの方面にのみ路線を擴張したのであつたが、北支全地域に於ける同公司以外の自動車運送事業（定路線定期運行）は約一萬キロの路線に約二千輛の車輛が動いてをつた樣である。就中山東省內は韓復渠の計畫に成る省營自動車が統一運營されて省財源の捻出を助けてゐた。

支那事變勃發するに及んで之等の支那側自動車は殆んど支那軍に徵發されて影を潜めて終つたのである。そこで華北汽車公司は疾風の如く進攻する皇軍の占據地域に自動車を進出せしめて軍事作戰を容易ならしめたのである。

自動車が軍事上如何に重要であるかは既に各國の事績に徵する迄もなくこの事變が明かに實證したのであるが、この事變に於て華北汽車公司及び今の華北交通會社の自動車運送が、軍事目的及び交通機關として本來の機能以外に、當初から引續き果しつゝあるものは戰後の民心安定、愛路村の結成、聯銀券の流通範圍擴大といふ政治的役割である。

五輛乃至三十輛の縱列を編成した自動車が日の丸を飜へし塵をまきあげながら戰火未だ治まらぬ地帶に運營を開始する。この壯觀をはじめて見せられた住民は久しい間の支那軍の桎梏と戰爭の恐怖から解放されて蘇生の歡喜に醉ふのである。「もう大丈夫だ」と言ふ彼等の安全感は期せずして皇軍に對する感謝と信賴に變つて行く。

而して營利を第二義とする此の國策自動車の運賃は勿論低廉である爲に、今まで自動車運送の恩惠を知らぬ客貨が之に向つて殺到する。處が運賃及びその貨物の買付は總て聯銀券でなければ取扱はれない。斯くして此の自動車運送を通じて聯銀券は法幣を追つてグングン奧地に流通されて行く。

自動車運營に直接重大な關係を有するものは道路である。從來北支の道路は自動車運行を前提として築造されたものではなかつた。今事變に際し我が軍の猛烈な進擊を阻止せんが爲、敵はこの道路及橋梁を無慙に破壞し去つたのであつたが、日支當局は鋭意之が修復に意を用ひた結果、事變前に比較して遙かに優秀な道路が出來上つたのである。たゞ憾むらくは土質が所謂黃土であるに加へ北支には砂利が尠い爲に埃が濛々と立ち、又雨季になれば運行不可能になる。自動車に運休されることは沿線住民の生活に至大の影響を及ぼすので、住民の必然的要請から生れたのが愛路村の結成に依る道路の愛護運動である。華北交通會社は之を指導し種々な利民工作を實施しつゝ、相互連環の美はしい情景を到る所に見せてゐる。

以上よりして自動車路線は鐵道、水運と共に北支治安のバロメーターでもあり、その路線が今一萬キロを突破して猶發展しつゝある現狀を見れば、北支の民衆が如何に新秩序建設を翹望し之に協力しつゝ皇軍の庇護の下に嬉々として其の生業にいそしんで居るかゞ分るのである。

玆に忘れてならないのは、華北交通會社が開拓した此の一萬餘キロの自動車路線こそ、若き數千從業員の祖國愛から迸る血と汗の凝結であり、受難苦鬪の連鎖であつて、既に數十人の尊い犧牲者まで出してゐるのである。これこそ東亞新秩序建設史上、永遠に記錄さるべきものである。

◇

華北交通會社は原則として都市の自動車交通はやらない。產業開發が主目的であるし又長距離運送と市內バスとは經營方法も自ら異るからである。この趣旨から天津と青島には夫々二百萬圓の資本を擁する傍系會社が設立されて專ら市內バスの運營に當り、市民の足としての役目を果しつゝある。

濟南、太原、開封市內は便宜上華北交通會社がバスを直營し、姑娘車掌のサービスが人氣を集めてゐる。

北京の市內バスは市營である。最近日人の指導によつて漸く收益を見る樣になつた。それは無論合理的經營方法を學んだからではあるが、古來支那の社會では「顏」が相當に物をいふ。バスの乘客にしても顏の利かない者だけが運賃を拂ふといふ狀態では收支償ふ筈がない。華北交通會社では斷然この顏を通用させないが、北京市內バスでも最近それがなくなつて來たことは市財政を尠からず堅實なものにしてゐるのである。

蒙疆地帶は事變以來華北汽車公司に於て統一運營しつゝあつたが、自治政府誕生と共にその政治的特殊事情から華北交通會社の投資會社蒙疆汽車股份有限公司となつて獨立し、遠くオルドスの大平原に迄自動車を進めつゝ內蒙の開發に時には五原攻略に從軍し淚ぐましい活躍を續けて居るのである。つい最近迄は駱駝が唯一の交通機關であつたこの沙漠地帶に今や我が國產自動車が疾驅する光景は正に躍進日本の表象でなくて何であらう。

北支蒙疆の自動車交通は、華北交通會社における鐵道及び水運の綜合的一貫經營によつて、或は指導統制によつて世界に比類なき理想的經營を新天地に展開しつゝあり、大陸を縱橫に貫くところの更に高度な自動車交通網は今や現實のものたらんとしてゐる。

大陸に眠る無限の寶庫、堅く閉された古代支那の神祕が、華北交通會社の水陸交通網を通じて普く世界に紹介される日は急速度に近づきつゝある。

可園雜記

加藤新吉

財を見れば份あり、河を過ぎれば橋を截つ、といふ語がある。利益を伴ふ話の場に居合はせる、何か口をきく、紹介をする、それだけで彼は必ず利益の分配にあづかるのである。だが話が纏り取引が濟んでしまへば當事者は自ら緣を截つ、第三者への利益の分配なども知らぬ顔である。だから彼は豫め分け前何程と約束し取引が濟む前にいち早く督促受領する。それは支那では極めて當然のこと、決して義理の惡い事柄ではないのである。

錢有れば千里も通じ、錢無ければ隔壁も聾すといふは警策の語ではなくて事實の直叙である。黄金は萬能であり之を獲るには手段を選ばない。賭博や賄賂は昔から罪惡には數へられない。孔子も、回や屢空し賜や屢中ると、平氣で賭博の巧拙を論じて居られる。周易に、包むに魚あれば咎なし魚なければ凶を起すとある、包むは苞苴の義、即ち賄賂がものをいふことを敎へたものだ。孟子が、王何ぞ必ずしも利を曰はんまた仁義あるのみと言つたのは賄賂を暗示したのだ。そんなことが內田良平著支那觀に書いてある。

賣買は是れ賣買、人情は是れ人情、この語の意味する所は利益のことは自ら別、義理や人情に拘はらないといふのである。この心理は勿論商賣の場合最も露骨に表はれるであらうが、利益第一主義は必ずしも商賣の場合には限らない。見方を變へて云へば世上の事多く彼等には賣買であるのかも知れない。山路愛山は其著支那論に、他國に征服された人情の常として漢人は極端な個人主義に陷つた、面目と獨立を維持すべき劍を賴むことのできない漢人は其強い個人主義の背後の力として錢を賴んだ、この結果として支那の官吏は多くは富を其一身に集める、と書いてゐる。

三年の清知府、十萬の雪花銀なる俗諺は清朝官場の實狀を云つたものであるが、賄賂と中飽と蓄財とは今も絶えない。中飽とは中間でくすねること、而かもこの中飽は謂はゞ制度化されて居り行政の請負も徴稅の請負もあるのである。官吏は其地位に從つて大なり小なり稅金の頭をはねる、適當にはねて居る限に於て善政たるを失はない。稅金が目だつやうになると睨まれる。稅金を少く上納するには人口を少く報告すれば足りる。時に政府が、人口增殖せざるは其政宜しからざるが故なりと一口叱りさへすれば、殊に德政でも布告しようものなら、支那の人口は何時でも急激に增加したものなのである。

包辦すなはち請負の制度は、調べて見たら古來政治上にも必ず多分に利用されたものであらうと思ふ。縱令日本人には了解困難でも今それをやつてみたら、支那人は却て親しみ深いといふかも知れぬ。この病人を十圓でなほすといつたやうな請負、之を包醫といふのであるが、それなども支那では通常ありふれた事で何の奇もないのである。

日本人の潔癖は賭博や賄賂を許容しない、利益をいふを恥とするかも知れない。地方行政の請負など笑つて了ふかも知れない。併し處は大陸、相手は支那人、日本とは自然も社會も民情も違ふのである。日本の善意必ずしも通らず、率直に云へば善意の惡政もあり得るのである。せめて自己の潔癖と善意を他人に押賣しないだけの餘裕が今後の日本人には欲しいものである。



農家と肥料

みづの・かほる

北支農村の俚諺には、肥料に關するものが少くないが、その云ふところは何れも施肥の必要を訓へてゐるものばがりである。又かつてワグナーが、北支農家の園藝式耕作法では、施肥さへ充分であるならば、その土壤と氣候の上より見て、現在の二倍に當る收穫を得べきであるとさへ極言してゐる。北支の土壤は、さやうに飢ゑ疲れて居り、北支の農業經營には肥料問題が、如何に切實であるかを窺ひ知ることが出來るのである。

北支に於ける肥料供給の主役をつとめるものは、家畜であると言つても過言ではあるまい。この家畜の糞尿が主體となつて、これに雜草、藁稈、人糞尿等や土を加へ、これを腐熟さして所謂支那名の土糞として施用される。

北支は由來有畜農業で、耕作あるところ必ず家畜があつて、作物、飼料、家畜、肥料の循環的調和がとれてゐたのであるが、節度なき人口の增加に、限りある農地の生產はこれに追つつかず、農地の零細化、飼料の不足等から家畜の數と質は年とともに低下の一途を辿り、今日北支の有畜農業は既にその名實を失ひ、役畜の不足と肥料給源の缺乏に惱んでゐるのである。

飼料の不足することに就いては前に述べたやうに、北支の農地が燃料の生產までも負擔させられてゐて、粗飼料としてふりあてらるべき作物の莖葉が、一足先きに竈に投ぜられ、更に濃厚飼料たる穀實に至つては、人間の食糧さへ不足勝ちなのであるから、貧乏農家には家畜の飼へないのもあたりまへである。家畜どころか近年農村の疲弊は、農家戶每の慣習的な番犬の飼育さへも次第に少くなつて、飼つてゐるものでも文字通り喪家の狗の如く、犬の姿が恰も今日の農村の困窮ぶりを如實に物語つてゐるかのやうである。

かくて家畜無き農家に肥料無く、肥料無き農家に豐收は望まれない。まことに肥料の缺乏は生產力の減退となり、家畜の減少が農村疲弊の果となり因となつてゐるのである。

閑話休題、筆者はこゝに北支の農民が肥料を得んがためにどれだけ苦勞をし、且つ工夫をめぐらしてゐるかに就いて、二、三の挿話を試みようと思ふ。

これは山東のある縣城の家畜市場の出來ごとである。何十頭何百頭といふ家畜が――多くは牛――立ち並んでゐる中を、家畜の數よりももつと多くの子供や大人が籠を提げ、あたりを右往左往して糞拾ひをやつてゐるのである。それが面白いことには、彼等は牛の尻を見て、もう糞をしさうだと見ると――彼等はそれを經驗でよく見分けがつくらしい――その牛の尻の側を離れないで時の至るを待つてゐる。そしてもく／＼と出るが早いか籠を尻の下にすけて、湯氣の立つ新鮮なのを受けとつて破顏一笑、得たり賢しと又次の獲物を探すのである。地上に落したのを拾ふやうななまぬるさでは、拾ひ手の競爭者が多いから商賣にならないのである。

北支の田舍を旅したものはすぐ氣づくことであるが、田舍の道路は日本の道路のやうに、牛馬糞が決して散亂してゐないことである。これは敢へて北支の牛馬が禮儀正しいのではなくて、農民達が四六時中糞拾ひに精出してゐるからである。農民の子供は、三歳にして肥料＝糞の如何に貴きかをわきまへてゐるのである。部落の子供は遊ぶ時にも糞拾ひの籠を手から離さない。農繁季の糞拾ひは、子供や老人の役目であるが、多季農閑中は大人も遠いところまで集めに出掛けて行く。しかしこの糞拾ひも馬鹿にはならない。糞も積れば山となるで、勤勉な農民だと一年間には三千斤にも達しこれで二反歩あまりの畑を肥培するに充分である。

筆者は去る年、山東の山道を馬で越したことがある。その山道の曲りかどに來ると、筆者の乘つた馬が立ちどまつて糞をするではないか。ところがよく見ると、そこには半坪ばかりの場所に、牛馬の糞が少しばかり集められてゐるのである。案內者に聞くと、これはこの山村の農家が、この山道を上り下りする馬や驢馬の糞を、肥料にするために採集する仕掛なのださうである。農家は前もつて僅かの糞を山道の曲りかどのところへ集めて置く。さうすると道行く馬や驢馬が、又そこへ糞をしてくれるといふのである。馬や驢馬がその糞を見ると、必ず糞をするといふ彼等の習性を利用して、肥料蒐集法を考案したものである。まこと窮するものは道にかしこい。

これも山東の山村の話であるが、部落から遠く離れた山畑になると、充分

の施肥も出來ぬし、又たとへ施肥をしたくても運搬が大變である。そこでこの地方では緬羊の放牧を利用する。

先づ畑の主は、放牧者に今夜羊の群を自分の畑に野宿さしてくれるやうに頼み、夕方までに畑の中に羊追ひの泊る簡易な小屋をつくつては馳走を運んで待つてゐる。さうすると日暮れごろ山でたらふく喰つた羊が畑へ來て、思ひ思ひに腹這つて一夜を明かす。羊は夜中反芻して腹の草をこなし糞と尿を畑に遺してくれる。かうして二、三泊繰り返へすと相當の肥料分が畑にばらまかれる。そこで耡き起して、播きつけが始まるといふやうな段取りであるが、誠に妙を得た施肥法である。

人糞尿が肥料に使はれる國は、貧乏百姓の國だといふことであるが、日本はまさしくその好適例、滿洲の農家には便所が無くて、人糞はそのまゝ犬へ奉仕され、肥料としてあまり利用されてゐないが、流石は滿洲ではある。まだまだ土地の廣さに肥沃度に、餘裕があることをこの事實に物語つてゐる。ところが北支は矢張り人糞尿を肥料として利用してゐるから、これから判斷しても、北支の農村も亦不幸にも貧窮の範疇にあると言へる。

たゞ北支農村の便所は、便所單獨のものが無くて、便所と堆肥場とが合作されてゐる。普通この便所は十尺四方に深さ三、四尺の溜穴で、人糞尿も庭の掃き集めた塵埃も、雜草も、およそ木と石を除けば何もかも一所にはふり込んで腐熟さす。露天であるから、雨も降り込むし陽も差し込む。時には土も投げ込む、一杯になると搔き出して、これを積んで更に一、二回切り返し充分發熱腐熟さして後細粉としこれを畑の播き溝に撒布する。これが卽ち支那語の土糞である。肥料といふよりも一種の濃厚な肥土であるが、北支のやうな乾燥地帶では、極めて合理的な肥料で、日本のやうな液肥の人糞尿はこゝでは却つて危險である。

又この便所兼堆肥場は更に豚小屋を兼ねてゐるものが多い。豚はこの穴の中を天地として飼はれ、新鮮な人糞や投げ込まれるあらゆるものゝ中から餌を探して腹を充たし、一方彼自身が糞尿をたれ流し、その上よく足で踏みつぶして肥料の製造に加勢をしてくれる。まことに一石二鳥の策である。

以上は、家畜の糞尿を主とする北支の一般的な肥料に就いて述べたのであるが、この他棉實粕、落花生粕、大豆粕、胡麻粕、燒酒粕、及び肥田粉が用ひられてゐる。粕類を用ふるのは、中流以上の農家であり、作物も棉花、煙草、小麥、野菜、果樹の如き商品作物に施用される場合が多い。粕類は僅かに山東の落花生粕が豚の飼料として用ひられるほか、一般に家畜の腹を通すことは少く、これを粉碎して直接施用されてゐるやうである。

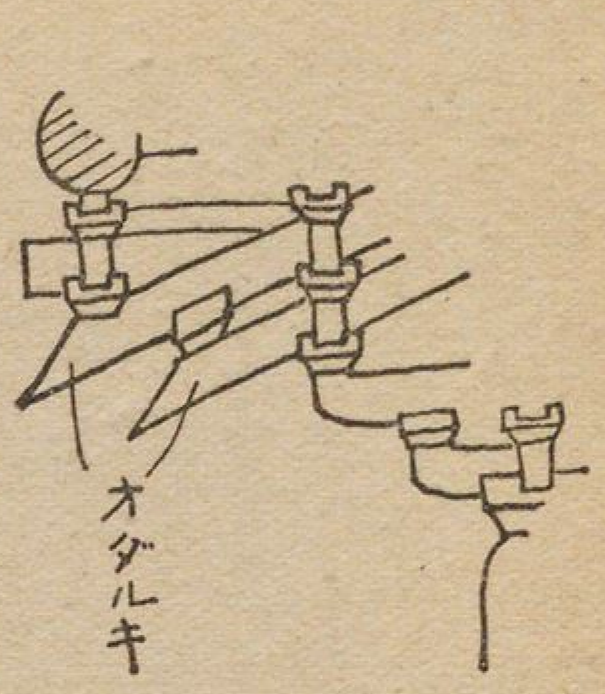
肥田粉卽ち化學肥料の施用は、山東に於てはすでに三十年前ドイツ商人によつて輸入され、彼等の巧妙なる宣傳によつて、無智な山東農民をして化學肥料の奇效に驚嘆せしめたが、未だ自給自足的な農家の經濟には、肥料代の現金支出には堪へ得べくもなく、今に至るも普遍的な施用は行はれてゐない。而し前述のやうに家畜の減少による肥料給源の缺乏、更に商品作物の增加、灌漑栽培の普及は將來必ずや化學肥料の豪華な登場が期待されるであらうことは疑ふ餘地の無いことである。

ワグナーがかつて、農業經營の特性を根柢より變ずることなく、資金によつて補助すること無く、如何にして支那農業の改良を圖るべきやといふ問題を提出するならば、結局肥料による外無く、化學肥料を在來肥料の補充として使用することによつて、差し當りその目的を達することが出來ると言つてゐることも亦首肯されるであらう。

支那建築の話

斗栱

村田治郎



斗栱といふのは柱の上、ノキの垂木の下にある少し複雜な木組みである。その水平にしたウデ木のやうなのをヒヂキ（肘木）といひ、ヒヂキの上に三つならんだ四角な木をマスまたは斗といふ。マスとヒヂキとを一括して斗栱と支那でも日本でも呼ぶから、結局ヒヂキは栱の字であらはすことが出來るわけだらう。栱は木ヘンで、これを手ヘンにして拱と書くとアーチ（つまり半圓形の窓や出入口）であつたが近來日本の建築學會では拱の字をつかはないことにした。

斗栱は立體的になりすぎてゐるから文字や圖では中々説明しにくく、説明しても解つていたゞくことは一層困難かと思ふ。しかし世界各國ともに古來木造建築のないところはないのに、斗栱のやうな複雜な構造法を發達せしめたのは、ひとり支那建築だけであり、きはめて原始的な斗栱らしいものは、かつて印度でもスペインとかアイルランドでも使つたことがあるが、支那の斗栱とはまるでくらべものにならない幼稚さであつた。従つて斗栱は支那建築獨特のものであり、じつに支那建築の象徴ともいひ得る。そればかりでなく斗栱の形が時代とともに次第に變化してゐるので、その微細なうつりかはりを見ることによつて、年代不明の建築の年代を推定することさへ出來る。だからどうしても一度は簡單ながらでも斗栱の説明をせざるを得ないが、面白い話ではないから筆者としてもまことに書きづらい。

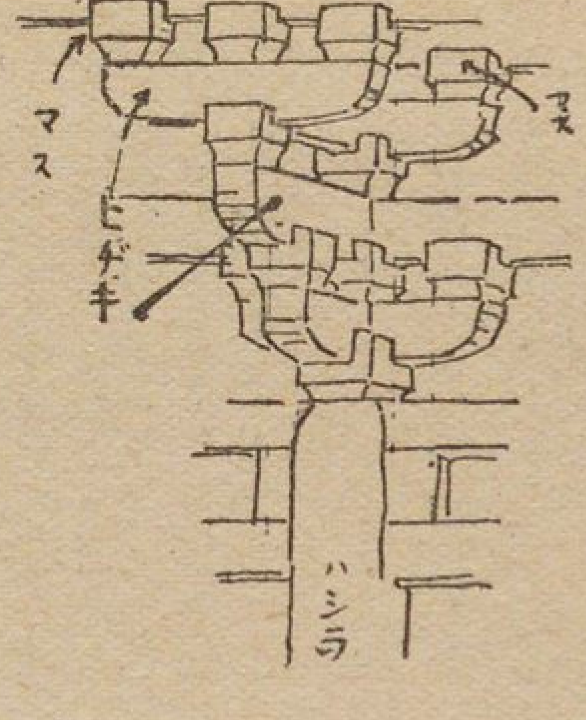
斗栱はいつころから始まつたか？論語の公冶長篇に臧文仲が卜巫に用ゐる龜をおく建物に山節藻梲したのは僭越の沙汰だと孔子がいはれた話が出てゐるが、その山節といふのが斗栱に山模樣をほつて裝飾したことだといふから、もう孔子のときに斗栱があつたのであらう。さうなると斗栱がはじまつたときは、それよりよほど昔のことらしく想像されるが、しかしいつからとは誰にも返事が出來ない。

漢代以後には斗栱の名稱もいろいろあつたらしく、種々な文字をつかつてゐて、マスを櫨とか栭とし、ヒヂキを欒または枅などとした場合がある。繍栭とか雕欒といふやうな文字は、マスやヒヂキに彩色模樣や彫刻がしてあつたのをいつたのだし、曲枅といふのはヒヂキが曲がつてゐるさまをあらはしたのである。かうした漢代ころの名も次第に變化して、近代になるにしたがひマスやヒヂキの位置や大きさが違へば名稱も變へて、名をきいただけでどの斗栱であるかがわかるやうになつた。しかしそれはあまり繁雜だし、日本人は由來めんだうな名を使ひわけるのが嫌ひだから、一切述べないでおくことにしよう。

なぜ斗栱といふやうなものが考へ出されたか？　それは支那建築の屋根は泥や瓦をのせてゐるので非常に重いが、その重い屋根を柱の垂直面よりもずつと前の方につき出すので、その部分を支へるために必要な構造法として、發生し發展したのである。だからノキがあまり出てゐない建築では、今でもほとんど斗栱をつかはないでゐる。斗栱が幼稚な時代よりも、發達した後世の方がノキもよほど深く出てゐる筈である。ところが發生は構造上の必要といふ全くの實用的な立場からであつても少し後になるとそれが一つの裝飾法にもなつてきたらしい。漢代以後の賦などに斗栱の重なつたさまとか、斗栱を美しく裝飾したのを讃賞してゐるのによつても、その點が察せられる。

裝飾的になるにしたがつて、斗栱は必要以上に複雜な組みあはせをするやうになつた。それでも昔は木材がわりに豐富だつたせゐか、かなり大きな斗栱をつかつてゐるが、元・明・淸と年代がくだるにつれて、斗栱は段々形が小さくなつてきた。北京の宮殿などの斗栱はいかにも小さい。小さなのが數多くならべたててあるのは、全く構造的の意味はなく單なる裝飾としか思へない。この點が日本の佛寺建築はかなり違つてゐる。日本では雨が多いためでもあり、また木の構造法を重く見た結果でもあらう、斗栱の構造的の意味を强調し裝飾的要素を第二義としたらしく支那建築にくらべるとノキがはるかに深く出てゐる。それも昔よりも近代になるにつれて、ノキの出が大きく

なつたのは、構造技術が次第に發達したことをよく物語つてゐるが、支那では昔も今も日本ほどノキが出てゐないばかりでなく、むしろ昔より清代の建築の方がノキの出方が少なくて、鈍重に見えるとさへ言へるだらう。ノキは長く出た方が日本の建築のやうに輕快に見えるものである。



斗栱の形がはつきりわかるのは後漢ころからであらう。いはゆる畫象石にあらはれる建築の圖は、あまり幼稚な表現法なので斗栱の正しい形を示してゐるとは思へないが、それでもごく簡單なのと幾つもかさねた賑やかなものとがあつたことだけはわかる。やゝ斗栱を明らかにしてゐる畫象石でも、大抵はヒヂキが水平に一直線になつてゐて、兩端にまるみをつけてゐない。ただ水ぎはにつき出た亭の建築をあらはした構圖に、いくつもの斗栱をかさねて、ヒヂキが曲線をゑがいてゐる例が見える。

かうした畫象石は、山東地方に多いから、少くとも、北支建築の一傾向をある程度まで示してゐるのだらう。しかし、漢代の文字にあらはれた斗栱は、もつと賑やかで立派なすがたを想像させるに十分である。その一面を推察せしめるやうな例が、四川省の後漢の石闕（石造の門）にあり、畫象石のとちがつて、三日月形の彎曲や曲りくねつた奇妙な輪郭のヒヂキが刻み出されてある。

かゝる曲線の多い斗栱は多分後漢から次の魏・晉・南北朝へとつたへられたものと思はれる。大同の雲崗石窟にある佛殿の浮き彫りに、獅子のやうな獸類のすがたをした斗栱が用ゐてあるのは、印度方面から流れてきた西南アジヤの柱頭飾りの傾向と解釋出來るかも知らないが、むしろ後漢からの曲線的斗栱の發展と見た方がよさそうに思ふ。わが法隆寺などの建築には雲形斗栱とよぶ曲線ばかりのものがあり、それと同じ斗栱はまだ支那では發見されないが、しかし法隆寺などの建築樣式は支那の南北朝の流れをくんだやうだから、雲形斗栱もまたさかのぼれば同じ傾向のが支那にあつたと推察してよからう。

南北朝時代の斗栱には別に後漢の畫象石じみた系統のやうな簡單な形のものがあつた。それはヒヂキの下の隅のところがまるくなつてゐるか、または幾つかに折れた直線或はいくつかの凹曲線の連續になつてゐる。これが次の唐・宋・遼などの時代にひきつゞき用ゐられたが、しかし曲線ばかりの斗栱は唐代にすでに消滅してゐたらしく、それ以後の建築にもあらはれて來ないやうである。尤も中支以南の一部では、或は捨てないで使つてゐたかとも思はれるふしがあるが。

後漢から唐までの斗栱は小さな石の彫刻とか浮彫り、甎（せん）でつくつた塔とか繪畫などに殘つてゐるばかりで、大きな木造建築が一つもないから、複雜な斗栱がどんなだつたか、少しもわからない。わが奈良時代の佛寺建築は、唐から學んだところが多かつたといふが、その斗栱は非常に發達してゐるから、唐代の木造建築でも、まだ十分複雜な斗栱を持つてゐたと推察される。唐の面影をつたへてゐると思はれるのは、遼の木造建築であり、幸にして、山西・河北・及び滿洲錦州省に若干の遺例が見られる。大同の下華嚴寺薄伽教藏、や善化寺大雄寶殿などがそれである。

唐代までの斗栱は壁に平行かまたは直角に組まれたやうであり、日本の斗栱もまた同じであるが、遼代になると更らに壁に對して四十五度とか六十度の角度をもつて斜めに出る斗栱が加はつて來てゐる。北宋時代の初期にも、同じ傾向があるから、斜めの斗栱は、唐代末期にすでにあつたのかも知れないとも思ふ。遼や宋の斗栱でもう一つ注意したいのは、壁に直角の方向に斜め上から斜め下につき出て、先端がけづられて三角形になつてゐる部材があることで、それを日本では、ヲダルキ（尾垂木）とよんでゐる。ヲダルキは支那でもずつとむかしから使つたはずだが、くはしいことはわからない。これもまた構造上の必要から考へ出され、斗栱とは離すことの出來ないものである。

ヲダルキの先端の三角形は遼や金代初期にはまだすべてが直線であるが、金末から元初になると三角形でなくなり、上部に凹曲線を加へてくる。その凹曲の度は明・清になれば一層强くなり、この點を注意しておぼえて置けば年代の大體を推定するときにヲダルキの形をみるのが最も便利であることを感じてくるのである。

繪は濟南小學校　宮田まさ（十歲）



私のお父さん

北支と蒙疆の鐵道や自動車や水運の仕事を一手に引受けてゐる華北交通會社（本社は北京です）には日本人の社員が三萬人（社員は全部で十萬人）働いてゐます。そのうちの七千人は日本や滿洲に家族を殘してゐます。家族と一緒に居る人達も不自由な生活をがまんして、お國のために兵隊さんと一緒に一生懸命働いてゐるのです。ここに掲げる綴方と繪はその人達の子供達が書いたものであります。

マチドホイ　オ父サン

石家莊日本小學校
一年　ハヤシ　テルコ

私ノオトウサンハ　ドウホセン（同蒲線）ノ　ホシユウエキ（蒲州驛）ノジョヤク　ヲシテヰマス。前ニハ　セキタセン（石太線）ノ　セイケイエキ（井陘驛）デシタガ　十二月ニ　テンキン　シマシタ。オトシトリ　ニモオ正月　ニモ　カヘリマセンデシタ。

三月ニハ　キット　カヘツテ　下サルデセウ。イツモ『一バン　カハイイテルチヤン　ヘ』ト　オテガミ　ヲ下サイマス。私ハ　マイニチ　ハヤク三月ニナレバヨイ　ト　イモウト　トマツテ　ヲリマス。

お手本になる

北海道旭川市青雲小學校
三年　風　間　登

父さんが支那へお立ちになつたのは去年二月十七日の寒い〳〵日でした。停車場で見送りに來て下さつた大ぜいの人たちとバンザイ、バンザイとはたをふつたのがお別れでした。父さんはいい南の驛へおつとめになりました。朱りう店の驛にも行かれました。そのたびにゑはがきや長い〳〵手紙を僕に下さつて、父さんは元氣で支那の人たちとはたらいてゐるから登も體を丈夫にして、よく勉强して母さんのいふことをきいて、るすをするやうに申して來ました。今度は徐州に行かれました。長い間、手紙を下さいませんので僕はずいぶん心配しました。そのうちに手紙が着き徐州といふところはとてもいそがしくて朝は暗いうちから夜おそくまでお仕事があつて、時にはゲートルをまいたまゝおやすみになることもあると書いてありましたので、お體をこはさなければよいがと皆で心配してゐました。その後徐州からかへられた小父さんが、父さんはとても元氣で、支那の人たちに仕事ををしへたり、日本人のよい所を支那の人にしらせるために、お手本になる働きをして居られると聞きましたので、僕はとてもうれしくなりました。早く僕もお父さんの所へ行きたいです。そして父さんと一しよに、支那の子供のお手本になりたいです。

父さんは二年たつたら、むかへに來て下さると言つて行かれましたが、まだ二年にならないので、おるすがとてもさびしいです。冬の日曜日などスキーに連れて行つて下さつたり、自てん車で兄さんや弟の有をのせて遊びに行つたりしたことが思ひだされます。

父さんは本を讀んだり、ラヂオを作るのが大好きでした。支那でも作つて聞いて居られるでせうか。家にはラヂオの道具がたくさん殘つてゐます。僕は支那へ行くときに持つて行つて作つてもらひます。父さん、早くむかへに來て下さい。みんなが樂しみに待つてゐます。

兵隊さんのやうに

鹿兒島市下荒田町二六三
十二歲　丸　山　和　子

うちのお父さんは、今北支の鹽坨站といふ驛に勤めて居られます。前は宮崎縣の山之口驛長をしていらつしやつたが、去年の九月北支の方へ行かれたので、母と私と二人の弟は郷里の鹿兒島に歸ることになりました。お父さんが出發されたのは九月十八日でありました。私は學校から早く歸つて、お父さんのお見送りに行かうと思つてゐましたが『お前は見送りより勉强の方が大切だから見送りに來なくてよい。一所懸命勉强なさい』といはれましたので、がまんして行きませんでした。學校から歸つて、お母さんにお見送りのことをおきゝすると、お父さんは兵隊さんのやうな服を着て、せんとう帽をかぶつて大勢の人に見送られて、勇ましく行かれたといふことです。しばらくの間は淋しくて〳〵たまりませんでした。晩でも戸をがらツとあけて『ただいま』とお父さんが歸つて來られるやうな氣がしました。船の中から二枚ゑ葉書が來ました。次に天津から來ました。しばらく天津にいらつしやつた

が、現在では灤蛇站といふ驛に勤めて居られます。お手紙によると灤蛇站は近頃出來た驛で、はじめは驛舎もなく、ねる所もないといふやうな所で、兵隊さんがそこを守つて居られたのださうですが、お父さんが行かれてから驛舎も建ち、お父さんたちの外に兵隊さんが八人ばかりで守備しながら働いて居られるさうです。驛舎のまはりは晝夜兵隊さんが守つてゐて下さるといふことです。

この前、お父さんの勤めてをられる華北交通會社から「留守宅要覽」といふ雜誌が來ました。その中には

「華北の地に勤務せられる社員の勞苦は、その姿、つとめこそ違へ、銃火の前に突進せらるゝ皇軍將士と何ら變りはない。時には軍隊と共に驛舎を死守し、時には砲彈をくゞつて鐵道修理に當つてゐる社員こそ、まことに銃なき戰士といつてよい。また前線の中間驛に勤務せられてゐる社員らは時には幾日も糧食を斷たれ、通信を絶たれ生死の中に彷徨せられる事もあります。しかしながら我が社員はこれらの勞苦を物ともせず炎暑酷寒の中に毅然として其の職分を盡してゐます。

この尊い汗と熱の中に新しい東亞は著々建設されて來るのです。我社は一萬五千キロに及ぶ華北鐵道と自動車路とを完成して新しい世界建設の基礎を作らうと努力してゐるのであります。從つて社員は一人殘らず其の捨石となる覺悟で働き續けてゐます。誰一人不足を言ふ者もなく、內地とは比較にならない程殺風景な土地で、言葉も不自由に、まことに氣の毒な生活を續けてゐるのです……」

と書いてありました。

勤めこそ違へ、お父さんも新東亞建設の第一線にたつ勇士であるとつくづく尊く思ひました。戰地のこととて、色々不自由なこともあらう。またあぶない目にもあはれるだらう。話を聞きますと匪賊のため戰死された社員も澤山をられるさうです。紀元節の日、南林寺町のをばさんが來られて雜誌を見ていらつしやつたが

『まあ、ずゐぶんあぶないんだね。全く命がけぢやありませんか』

とおつしやいました。

お父さんからはいつも、元氣で働いてゐるから安心せよ、兵隊さんたちが守つて下さるから少しも心配はない、皆元氣で勉强することが第一の孝行だ、と言つて來ます。家ではとこの前にお父さんの寫眞をかざつて、毎日かげぜんをすゑて祈つてゐます。小さい弟の彪までが御飯をいたゞく時には

『父ちやん、いたゞきます』

と言ひ、夜ねるときには

『父ちやん、お休みなさい』

と寫眞に御禮をします。

この前、綴方や書方や皆で寫した寫眞をお送りしましたら、お父さんから

『寫眞を見て家に歸つたやうな氣がする。綴方も書方も大へん上手になつたね。支那の子供は學校へも行けず、ボロ〱の着物を着てゐるよ。あなたは日本人に生れて幸福だ。これも皆 天皇陛下の御恩だよ。お父さんは支那に來て、始めて日本の國の有難さを知つた。灤蛇站を守つて下さる兵隊さん達に手紙や寫眞を送つてあげなさい。兵隊さんたちが一番ほしいものは慰問文です。きつと喜ばれるだらう。あなたがこの前送つた書方が驛長室にはつてある。皆ほめて下さるよ。お父さんも寫眞を送つた。もうすぐ着くだらう。體を大事にして、よく勉强なさい』

と返事が來ました。私はお父さんが安心して大陸の鐵道で働けるやうに體に氣をつけて、姉弟仲よく一所懸命勉强して、お父さんにほめていたゞかうと思つてゐます。



傳書鳩

思ひ出の地に建つ通州事件の慰靈塔

二百廿四名の犧牲者を出した、悲痛な通州事件も、來る七月廿七日を以て三周年となる。この時に際し通州事件殉難者慰靈塔が建設されることになり、目下それ〴〵準備中である。工費は外務大臣、朝鮮總督、滿鐵からの各二萬圓づゝの寄附金と、それに一般から贈られた淨財二萬圓、合計八萬圓のうち七萬圓を築造費に充て、殘りの一萬圓のほかに更に一萬圓を外務省の寄附に仰ぎ、他の諸設備工事費に充當することになつてゐる。敷地は九千坪で慰靈塔は主要部を鐵筋コンクリート造りとし、外裝は北京附近產の花崗岩張りで高サ十米、基臺廿一米平方といふ堂々たるものである。その他敷地內に子供遊園地を開設し、華北交通通州農事試驗場に依賴して、櫻や桃その他の植樹地帶を造ることになつてゐる。

◇

蒙疆の大平原を綠林地帶に

蒙古聯合自治政府では廣漠たる無毛の大平原を、理想的綠林地帶にしようといふので、來年度から十五ヶ年計畫を以て、大々的な植林計畫が實施されるが、先づ本年度は差當り農村備林として、平地林を造林する。卽ち察南、晋北兩政廳をはじめ巴彥塔拉(バインタラ)、察哈爾(チャハル)、伊克昭(イクチャオ)の各盟下六千二百ヘクタールに、楊、柳二千九百四萬本を植ゑ、更に一千三百六十ヘクタールにイタチハリ、ニセアカシヤ、ニレ、ネグンドカヘデ、ハギ、內地產落葉松など五百四十四萬九千三百本を植ゑる。それには各縣每に縣營苗圃を設け、政府當局より優良種子を無償配給し、一苗圃に五百萬本の苗木を植栽して、優良苗木の配給に當り、更に縣營造林や指定村造林を造り、外に私有造林として農家一戶に對し、卅本づゝ義務的に植樹させることになつてゐる。

◇

蒙疆の地下資源は招く

蒙疆地區では政府產業部の奬勵が利いたのか、地下資源の獲得を目指す利權屋がわんさ〳〵と押寄せ、鑛業法が施行されてから僅か三年足らずの現在までの採掘出願件數は、初年度二百二件、次年度が六百四件、本年度二月迄が四十九件、合計八百五十五件の多數に上つてゐる。その內譯を示すと石炭王國だけにさすがに黑ダイヤ出願が第一位の六百三十六件、次位が雲母百四十四件、以下石綿二十六件、石油十件、鐵九件、硫黃六件、硝石四件、金、銀、黑鉛、亞鉛等はそれ〴〵二件づゝ……そしてこの出願手數料が一件につき百圓、實地調査料各百五十圓、採掘許可となつて登錄料が二百圓となつてゐるので、政府の收入としても却々馬鹿にできない額面に上つてゐる。

◇

張家口に愈々水道が通ずる

蒙古政府の都市建設局に於て昨年四月から、初年度豫算百二十萬圓を以て、二ヶ年繼續事業として起工された張家口水道敷設事業は、補助水源地水母宮から淸河橋を經て興亞大街を南進、〇〇病院に通ずる幹線の敷設工事を終了、その後第二年度たる本年度の諸計畫は、更に工費八十萬圓を以て淸河上流水源地孤石村から察南政廳前に出て、明德大街から淸河橋を渡り、宣化大街から新市街に向ふ幹線並に支線の敷設工事に着手することになつたが、當局では來る九月十五日までには完成せしめ、一般への給水を開始する豫定である。なほ同水道の延長は幹支線を合せて三十五キロに上り、是を以て張家口も愈々水の心配がなくなるわけである。

天津飛行場の滑走路本年中には完成

昨年春より臨時滑走路を建設中であつた天津郊外張貴莊の天津飛行場は、同年夏襲來した例の大出水のため、已む無く工事を中止してゐたが、その後防水堤の構築により、從前の計畫よりも、更に完備した本格的滑走路を建設することになり、建設總署天津工程局では、新に工費百萬圓を以て幅員百メートル、延長一千メートルの理想的滑走路を四月より起工、遲くとも本年中には完成させる豫定となつてゐる。同時に飛行機發着の便宜を圖るため、飛行場の周圍二キロ內に、樹木を一切植ゑつけない運動場と、模範農場とが計畫されてゐる。

◇

天津鐵路局の手で京山沿線に觀光地

故國を離れて幾百里、娛樂と慰安に惠まれない北支の在留邦人に對し一大觀光地帶を建設しようといふので、華北交通天津鐵路局では、山內營業處長を委員長とする觀光委員會を組織した。觀光委員會では京山線隨一の景勝地として知られる渤海灣に臨む北戴河が、從來外人だけの避暑地とされてゐたのを、今夏より一般邦人にも開放し、更に灤縣附近のハイキングと昌黎の園藝試驗場と花見、

第一書房

戰時體制版

東京市麴町區三番町
振替東京六四二三三
電話九段(33)一四一五 三三四四

各冊 78 Sen

伊藤忠株式會社社長 伊藤竹之助
大阪朝日經濟部長 武内文彬
野村合名會社常任理事 山内 貢
栗本鐵工所社長 栗本勇之助

戰後の財政經濟對策

容内

非常時財政及び財政政策…戰時下の財政金融…戰時産業・貿易に於ける生産力の問題…時局經濟の二焦點

四六判三五〇頁　定價七十八錢

今や我等は徹底的な財政經濟對策を斷行すべき重大時機を迎へた!!だが如何なる對策が妥當であり、我等に最後を約束するか？本書を見よ!!

尨大な軍事費を中心に急激に膨脹した國家財政も既に現實となつた著しい物價水準の高騰！今や我が國戰時財政經濟は金と物と人の不足につれて免れ難い桎梏に陥つてゐる。今こそ我等は、戰時經濟に寸分の間隙をも與へない綜合的且つ徹底的なる對策を斷行すべき最重要時にある。綜合觀の上に立てる經濟統制政策の修正、改變によつて統制の强化こそ、我等の急務中の急務でなければならない。本書はこの緊切なる課題に應へるべく斯界の實際家が各々その專門の部面に就いて筆を執つたもので、戰時下より戰後に及ぶ財政經濟對策の凡ゆる問題が細密に檢討されてゐる。執筆者は孰れも實業界或は經濟界の第一線に立つてゐるだけに、この書は大學の研究室から生れ出たやうな單なる理論の書ではない。メスをあてると忽ち現實の赤い血がにじみ出る生きた經濟學であり、生きた財政對策論である。さきにおくれる『戰後の思想問題』と併讀さるべき刻下の必讀書である。

戰後の思想問題

室伏高信　安部磯雄
高木友三郎　齋藤 晌
阿部知二　中川善之助
高神覺昇　共著

戰後の思想はどうなるか？斯界の權威者を動員、戰後社會の全般を檢討する。

及び登山コースを作成して北京、天津、山海關あたりからの週末淸遊地を紹介、次いで南大寺を中心とする廣大な地域に亘る砂丘を利用してサンドスキー場を設けようと計畫してゐる。このほか秦皇島溫泉場の整備をはじめ廣く山海關、北戴河一帶を保健觀光地として、滿洲北支、蒙疆等からの旅客誘致に努むることになつた。

◇

北支水運の固め水上警務段

夏が近づくとともに水運は活潑な動きを見せる。華北交通會社では、天津と濟南の兩鐵路局に新しく水運處を設けて之に備へてゐるが、更に水上警務段を組織して小淸河百二十一キロ、南運河二百四十六キロ、子牙河百六十キロ、薊運河五十七キロ、合計五百八十四キロの區間を運行する各船隊に對し、それ〳〵段員を警乘せしめ、水運の安全と圓滑を期することになつた。段員は陸上の警務段と同樣、銃器を携へもの〳〵しい武裝をしてゐる。

◇

華北交通社員の健闘手記が世に出る

日支事變勃發するや滿鐵、鐵道省その他から派遣された鐵道從事員は、勇躍戰時輸送の大任に任じ、皇軍勇士とゝもに硝煙彈雨の中に挺身、その碧血を北支、蒙疆の山野に灑いでゐる。その間天津東站に於ける壯烈なる戰鬪あり、通州に於ける悲慘なる殉難あり、或は先驅車に散り、或は宣撫班、通信修理班として敵の重圍に陷り、更に激務の果て病魔に斃れるなど、身を以て交通を死守確保した尊き犧牲者は今日まで、既に五百名の多きに上り、今もなほ犧牲はつゞいてゐる。かうした大陸交通の礎石として骨肉を埋めた同僚の忠烈と交通從事員の氣魄とを、永く後世に遺し、社員の教典とする傍ら一つには興亞建設の祕史として廣く世に贈らうといふので、同社員會で『華北交通社員健闘手記』を編纂することになり、目下各方面より資料蒐集中である。

◇

北支に石炭自動車現る

ガソリン飢饉の折柄興亞の基地北京に石炭自動車が登場したといふ朗らかなニュース。それは華北交通自動車部の手によつて試驗されてゐるもので積載量三トンの大型トラック。石炭ガス發生爐附自動車といふ難しい名稱で呼ばれてゐる。一トン半の荷量で平地走行時速六十キロ、一回三百ポンドの燃料石炭を以て五百キロ持續となつてゐる。北支では現在のガソリン車が一キロ二十錢を要するに對し、僅か一錢で濟むといふ耳よりな話。しかも炭質は石太線の陽泉炭が理想とされてゐるので、これが研究の完成をまたれてゐる。

◇

獨身者泣かせの北京の貸間と下宿屋

北京の在留邦人は恐らく五萬人を下るまいと見られてゐる。その大半が家族を內地に殘してゐる單身者か未婚者である。だから貸間や下宿屋難は想像以上に深刻になつてゐる。貸間、下宿同業組合をみると昭和十三年九月發會當時は僅か二十七名の組合員だつたものが、同十四年末には一躍百七十一名の多數に上り、毎月二十名平均づゝ殖えてゐる。このほか未加入の素人下宿屋や貸間業者を加ふれば恐らく一千名を下るまいといはれてゐる。貸間代は疊一枚が最低三圓五十錢から五圓ぐらゐであるが、甚しいのになると十圓近いのもないではない。下宿料は二食付きで三十圓から八十圓程度、もちろん部屋代は別といふことになつてゐる。物價騰貴の今日ではあるが、これは相當に儲かる商賣らしい。

天津居士林で修行する日本青年僧

東亞新秩序の建設は先づ宗教からと日支佛教徒の提携のため挺身して支那佛教の研究に從事してゐる二人の青年僧がある。京都東本願寺派遣の經隆勸氏と同西本願寺派遣の橫山正知氏がそれである。兩氏は去る一月から、天津華街南馬路に在る居士林に起居し、衣服はもとより食事勤行讀經等も、盡く支那僧そのまゝの行を續けてゐる。

◇

日支の親善は女中さんから

北京の新民會首都總會では、中國細民階級の女性達に自活の途を講じさせるため、今般、北京西城半截胡同に、女中訓練所を設けることになつた。先づ日本人家庭むきに十五名、華人家庭むき十五名づゝを入所させ、日本人家庭むきの女中さんには特に日本語や、日本家庭の禮儀作法等を一ケ月位訓へ日支親善は先づ女中さんからといふ氣持を强く植ゑつけることになつてゐる。入所資格は身元のしつかりした志操の堅固なものとされてゐるので、從來使ひにくかつた支那人女中も漸次よくなる譯である。

◇



日本から北支

旅行常識 その1

鮮満支案内所

鮮満支案内所は鮮鐵、滿鐵、華北交通の三者が「日本朝野の大陸への認識に資し、併せてその來往の便宜を計るため」に設けてゐる無料案内、斡旋機關です。

朝鮮、滿洲、北支、蒙疆に關する旅行、貨物その他一切の質疑に應ずるほか大陸事情の映畫會、講演會、博・展覽會開催の斡旋、參加、協力も行つてゐます。

案内、斡旋はすべて無料です。利用をお勸め致します。

所在地

東　京・銀座二丁目　電京橋（二八二二・二八三三）
大　阪・堺筋安土町　電本町（二七〇〇・二七〇一）
敦　賀・驛前大通　電話二四七七
門　司・稅關前
下　關・驛前　電話一九六二
長　崎・萬屋町
新　潟・古町通　電話二七八八
小　樽・稻穗町　電（四七五〇・四七五一）

日本から北支へ

日本から北支へは普通次のやうな行きかたがある。例＝東京―北京間

朝鮮廻り（汽車）

東京↓大阪↓下關⛴釜山↓京城↓安東↓奉天↓山海關↓天津↓北京
東京↓下關間は汽車
下關⛴釜山間は汽船（關釜連絡船）
釜山↓北京間は汽車
東京から四日目目につく
三等運賃四六圓〇四錢（通行稅不含）
釜山―北京間には直通急行列車「大陸」「興亞」が走つてゐるから、これに乘れば早くて便利である。

大連廻り（汽船）

東京↓大阪↓神戶⛴門司⛴大連↓奉天↓山海關↓天津↓北京
東京↓神戶（又は門司）間は汽車
神戶（又は門司）⛴大連間は汽船（大連↓奉天↓北京間は汽車
東京から六日目につく。
三等運賃四五圓二八錢（通行稅不含 神戶―大連間乘船）
大連からさらに汽船で天津に行き、汽車で北京に出る行きかたもある（次の天津廻りの項參照）

天津廻り（汽船）

東京↓神戶⛴門司⛴塘沽↓天津↓北京
東京↓神戶（又は門司）間は汽車
神戶（又は門司）⛴塘沽（タン・クー）間は汽船（東亞海運天津航路）
塘沽↓北京間は汽車
東京から六日目につく
三等運賃三〇圓九四錢（通行稅不含神戶塘沽間乘船）
汽船は現在塘沽（天津の東、白河の下流）止りになつてゐるから、塘沽から汽車に乘換へること。棧橋のすぐ向側に驛があり船車連絡は簡單便利に行はれてゐる。

大連からさらに汽船（大連汽船天津航路）に乘れば天津につく（天津までつくのはこの航路だけで、日本からの汽船は目下塘沽止りである）天津碼頭（マー・トウ。波止場のこと）から驛又は市內まではバスその他乘物の便がある。

青島廻り（汽船）

東京↓神戶（又は門司）⛴門司⛴青島↓濟南↓天津↓北京
東京↓神戶（又は門司）間は汽車
神戶（又は門司）⛴青島間は汽船（東亞海運青島航路）
青島↓濟南↓北京間は汽車
東京から六日目につく
三等運賃三九圓四一錢（通行稅不含神戶塘沽間乘船）

飛行機

東京↓福岡↓青島↓天津↓北京
東京↓福岡↓京城↓大連↓北京
どちらも二日目につく　運賃二一一五圓

昭和十五年五月十五日印刷納本
昭和十五年六月一日發行

六月號
（每月一回一日發行）

編輯者　北京・華北交通株式會社 資業局資料課　加藤新吉
發行者　東京市麴町區三番町一　長谷川巳之吉
印刷者　小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社　大橋松雄
發行所　東京市麴町區三番町一　第一書房
振替東京六四二二三番　電話九段（33）一一四一五番 三三四四番

一册定價　三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分　金三圓六十錢

廣告取扱　大阪市西區京町堀上通一丁目二五
一手取扱所　一新社
電話土佐堀九三九

Munaval
-NISSEN-

寄生性・瘙痒性 皮膚病治療劑
ムナバール「日染」



ムナバールは化學的に合成したる有機硫黄化合體ヂメチル・ヂフエニーレン・ヂスルフイドにして皮内に滲透して強力なる殺虫作用を發揮し、同時に優秀なる止痒消炎作用を呈する理想的皮膚病藥なり。

【特徴】
一、用法簡便且つ無害・無刺戟にして何等副作用を伴はず。
一、嫌惡すべき臭氣なく且つ衣服類を汚損することなし。
一、品質純良にして約二六%の硫黄を含有す。

【適應症】
疥癬・頑癬・濕疹一切・白癬・水蟲・面皰・汗疱・陰嚢頑癬・皮膚化膿疹・傳染性膿疱疹・皮膚瘙痒症其他寄生性及瘙痒性皮膚諸疾患。

【包裝】
一〇瓦(瓶入)
二五瓦(〃)
一〇〇瓦(〃)
五〇〇瓦(罐入)
一〇〇〇瓦(〃)

NISSEN

製造元 日本染料製造株式會社
大阪市此花區春日出町

發賣元 株式會社稻畑商店
大阪市南區順慶町二丁目

北支
昭和十四年七月四日第三種郵便物認可　昭和十五年五月十五日印刷納本　昭和十五年六月一日發行（毎月一回一日發行）第十三號
定價三十錢